



---

PROFESSIONAL MONITOR RECEIVER

---

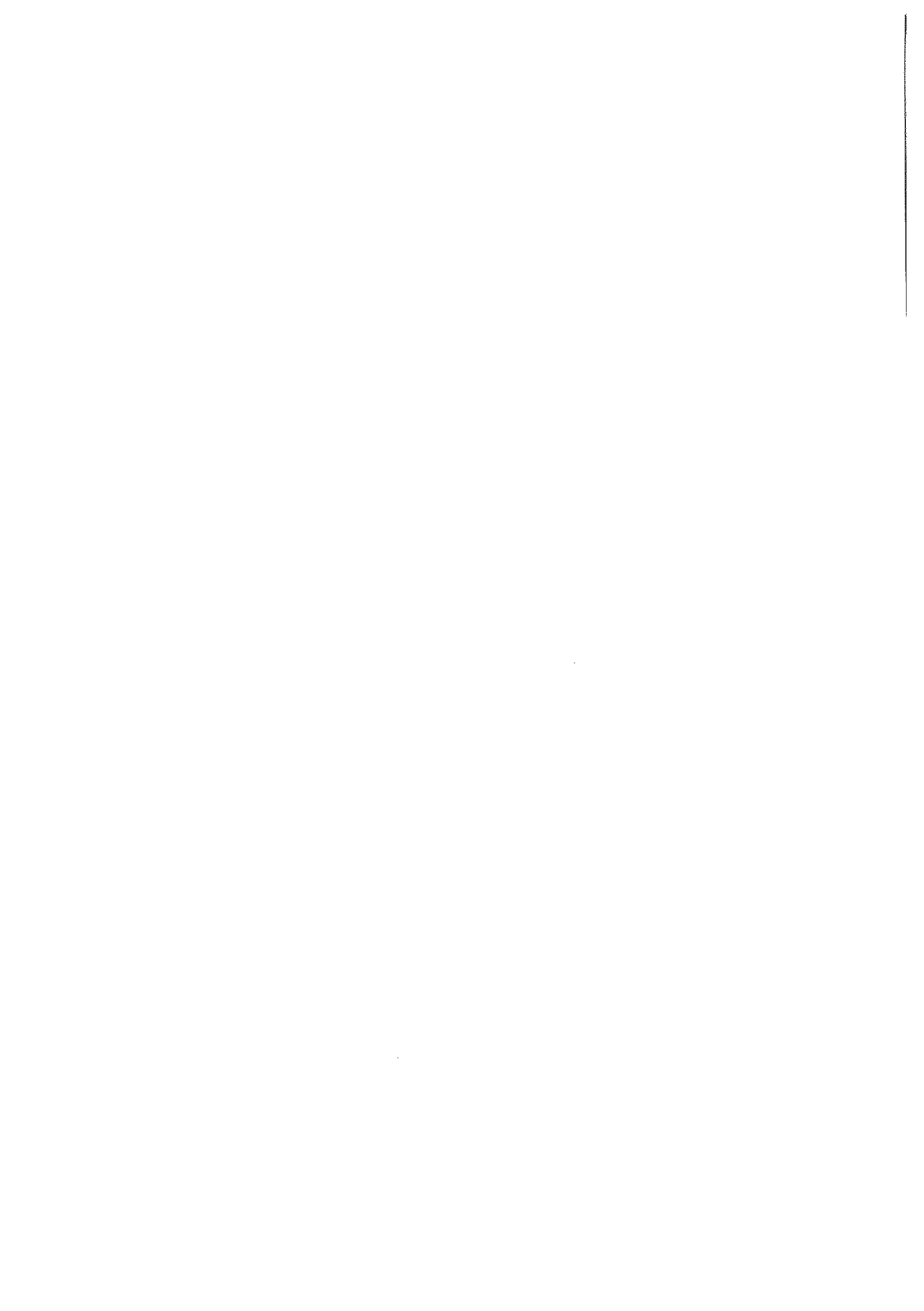
**AR-3000A**

---

取扱説明書

---





## ◎ はじめに

このたびは、『AR-3000A』をお買い求めいただき、ありがとうございます。

『AR-3000A』は、数多くの優れた機能を持つ、超広帯域オールモードレシーバーです。この取扱説明書は、本機の操作法と、別売アクセサリーを使って拡張できる利用法を、いろいろと紹介してあります。本機を使用する前に、必ずお読みいただき、正しくお使いください。

## ◎ 付属品

- ① ACアダプター
- ② DCコード
- ③ ロッドアンテナ
- ④ 取扱説明書
- ⑤ 保証書



# ◎ 目 次

[1] おもな特長	4
[2] 取扱い上の注意	6
[3] 設置と接続のしかた	7
3-1 DC(直流)電源で使用する場合	7
3-2 AC(交流)電源で使用する場合	7
(A) 付属のロッドアンテナを接続する	7
(B) 室内アンテナを接続する	8
(C) 屋外アンテナを接続する	8
[4] 受信機の各部の名称とはたらき	9
4-1 ディスプレイ部の名称	9
4-2 前面各部の名称とはたらき	10
4-3 後面各部の名称とはたらき	13
[5] 受信機の操作方法	14
5-1 基本操作	14
5-2 各選局モードの操作法	15
(A) ダイヤルモード	15
A-1 テンキーによるダイレクト選局	15
A-2 ダイヤルつまみによるマニュアル選局	18
(B) ダイヤル・サーチモード	20
(C) プログラム・サーチモード	22
C-1 プログラム・サーチによる選局	22
C-2 デイレイ・タイムの設定	23
(D) メモリー・チャンネルモード	24
D-1 メモリー・チャンネルの入力	24
D-2 メモリー・チャンネルによる選局	26
(E) メモリー・スキャンモード	27
E-1 スケルチの調整	27
E-2 メモリー・スキャンによる選局	27
E-3 メモリー・チャンネルのパス	28
E-4 メモリー・チャンネルの取り消し方	29
(F) プライオリティ・チャンネルモード	30
F-1 プライオリティ・チャンネルによる選局	30
F-2 インターバル・タイムの設定	31
5-3 ファンクションキーの使い方	32
(A) ステップ(STEP)キー	32
(B) ステップ・アジャスト(STEP ADJUST)キー	33
(C) シフト(SHIFT)キー, シフトセット(SHIFT SET)キー	34
(D) ポーズ(PAUSE)キー	35
D-1 ポーズ・タイムの設定	35
D-2 ポーズ・スキャン機能の作動	36

(E) 周波数パス(FREQUENCY PASS)キー	37
E-1 パス・チャンネルの入力(周波数パス機能)	37
E-2 パス・チャンネルの確認	37
E-3 パス・チャンネルの削除	38
E-4 テンキーによるパス周波数の入力	38
(F) クロック機能	39
F-1 クロック・タイムセット(CLOCK. S)キー	39
F-2 クロック・ディスプレイ(CLOCK)キー	40
(G) スリープ機能	40
G-1 スリープ・タイムセット(SLEEP. T)キー	40
G-2 スリープ ON/OFF(SLEEP. S)キー	41
(H) アラーム機能	42
H-1 アラーム・タイムセット(ALARM. T)キー	42
H-2 アラーム ON/OFF(ALARM. S)キー	43
<b>[6] AR-3000A利用術</b>	44
6-1 ヘッドホーンや、イヤホーンで音声を聞く	44
6-2 外部スピーカーで音声を聞く	44
6-3 音声を自動録音する	45
6-4 ニュースや気象情報をファックスで受信する	46
6-5 気象衛星ひまわりを受信する	47
6-6 パソコンを使ってリモートコントロールする	48
(A) 初期設定	48
(B) RS-232C モードの起動	49
(C) データ等の入力コマンド	49
(D) データの入力方法	50
(E) データ等の出力コマンド	51
<b>[7] おもな仕様</b>	52
<b>[8] 参考事項</b>	53
8-1 受信機内部の不要輻射について	53
8-2 信号強度の表示について	54
8-3 初期状態について	54
8-4 リセットのしかたについて	54
<b>[9] 故障とお考えになる前に</b>	55
<b>[10] 別売アクセサリ</b>	56
<b>[11] 受信ガイド便利帳</b>	58
11-1 初期状態時のメモリー・データ一覧	58
11-2 テレビ音声周波数一覧	60
11-3 航空無線周波数	60
11-4 マリンバンド周波数	60
11-5 パーソナル無線周波数	60

## (1) おもな特長

AR-3000Aは独創の世界から生み出された超広帯域、高精度、各種電波型式の受信能力と多彩な機能を組み込んだ究極の受信機です。

超ワイドレンジの受信能力。100kHz～2036MHzまでの超広帯域をオールモード(NFM/WFM/AM/USB/LSB/CW)で完全連続カバー。

長波(LF)、中波(MF)、短波(HF)帯から、超短波(VHF)、極超短波(UHF)帯の広範囲な周波数帯をくまなく受信。ワールドワイド情報からローカル情報まで幅広いニュースを適格にキャッチします。

スピーディーでスムーズな選局操作機能を多数用意。すべての放送、通信システムの周波数ステップに対応。

ステップ周波数の変更が、50Hz～999.95kHzまで50Hz単位で自由に設定可能。10倍モードの早送り機能付。4台の受信機に相当する4つのプログラム機能を装備しています。

受信モードと受信周波数の記憶メモリーを、計400チャンネル内蔵。4つのバンクに多様な情報をメモリーする多機能タイプ。

4つのバンクごとに各100チャンネル・メモリー設定●優先(プライオリティ)チャンネル設定●プログラム・サーチ設定●メモリー・チャンネルパスON/OFF設定●アッテネーターON/OFF設定●シフト周波数設定をメモリーすることができます。

多彩なスキャン・サーチ機能でスピーディーな受信。

高速ターボスキャン回路で情報をすばやくキャッチ●4バンクのプログラム・サーチで効率的なオペレーション●不要な周波数をカットするパス機能●1つのチャンネルまたは周波数を一定時間(秒)ずつ受信できるポーズ・スキャン機能をそれぞれ備えています。

見やすいLCDに多くのメッセージを表示。クロック機能装備。

受信モード、バンク、チャンネル、周波数、信号強度、時間表示などを1つのLCDの中に見やすく配置。グリーンのバックライトONで夜間もいっそう見やすくなります。24時間表示のクロック機能には、スリープ・タイムと、アラーム・タイムを設定できます。

究極のテクノロジーで高度感、高安定度を実現。

受信フロントエンドに13個のバンドパスフィルターとガリウムヒ素FETの採用で、相互変調特性、混変調特性を大幅に改善し、高度度を実現。また、PLLシンセサイザーの採用で周波数精度、安定度は大変すぐれています。

パソコンでのリモートコントロール用にRS-232C端子、音声自動録音用にDIN端子を装備。

AR-3000Aはパソコンの通信用インターフェースRS-232Cを通して、パソコンでリモートコントロールすることが可能。また、音声をテープレコーダーに自動録音することもできます。

気象衛星ひまわりの受信など、別売アクセサリを利用して、AR-3000Aの世界を拡張できる。

別売のパラポラアンテナ(DA-1000)とローノイズアンプ(LA-3000)、そしてプリンター内蔵ラジオファックス(WX-2000)を接続すると、UHF帯の気象衛星ひまわりの画像をプリントアウトすることができます。また、世界の最新ニュースや気象情報もHF帯を受信することにより、リアルタイムに鮮明に印画します。このように、超広帯域の受信機能を持ったAR-3000Aに、別売アクセサリをドッキングさせると、豊かな無線ライフを楽しむことができます。

## 〔2〕 取扱い上の注意

### ◆電源について

この受信機はDC(直流)12Vでお使いください。コードは付属の専用コードを必ず用いてください。家庭用電源(AC 100V)でお使いのときは、付属の専用アダプターを必ずお使いください。他のものを使用しますと、事故の原因になることがあります。なお、ACアダプターを使って、受信機を長い間使用しないときは、ACアダプターをコンセントから抜いてください。また、受信機の内部に液体や、異物を入れないようご注意ください。特に電源ジャックには注意してください。

### ◆設置場所について

直射日光が長時間あたる所や、暖房器具の近くなど、温度が非常に高くなる場所での設置は避けてください。特に、窓を締め切った直射日光があたる自動車内などに放置すると、ケースが変形したりして、故障の原因となります。また、水がかかる所、湿気の多い所、ほこりの多い所も避けてください。

### ◆アンテナについて

遠くの電波や、弱い電波をお聞きになるときは、外部アンテナを使用してください。当社では、オプションとして外部アンテナを各種用意しています。外部アンテナを設置する場合は、付近の電灯線、電話線、その他建物などにも注意して設置してください。

### ◆お手入れについて

受信機が汚れたときは、柔らかい布で拭いてください。シンナーや、ベンジン等は、受信機の表面を痛めませんので、使用しないでください。

### ◆運用について

日本の電波法では、「特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受して、その存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない」と規定されていますので、ご注意ください。

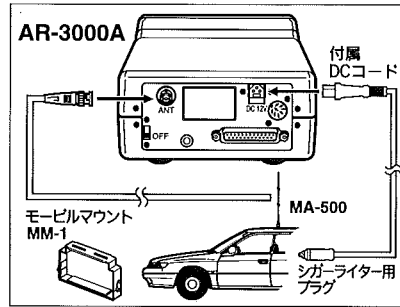


## 〔3〕 設置と接続のしかた

### 3-1 DC (直流) 電源で使用する場合

AR-3000Aを自動車内などでお使いのときは、付属の専用コードを、12VのDC電源に接続してください。この場合、＋に十分注意してください。接続をまちがえると、故障の原因となります。シガーライター用プラグを別に用意して、接続してもよいでしょう。

受信には、モービル用アンテナが必要です。別売アクセサリとして、モービルアンテナ(MA-500)、モービルマウント(MM-1)が用意されています。

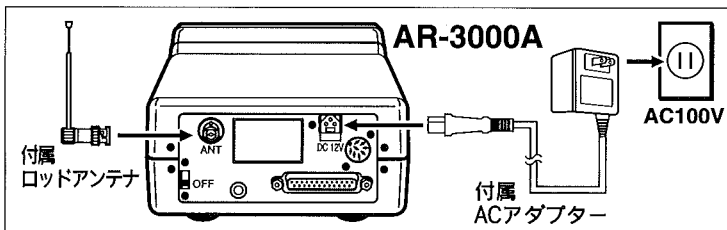


### 3-2 AC (交流) 電源で使用する場合

AR-3000Aを家庭用電源(AC100V)でお使いのときは、必ず付属のACアダプターを使用してください。アンテナは、本機を使用する環境によって、選択しましょう。

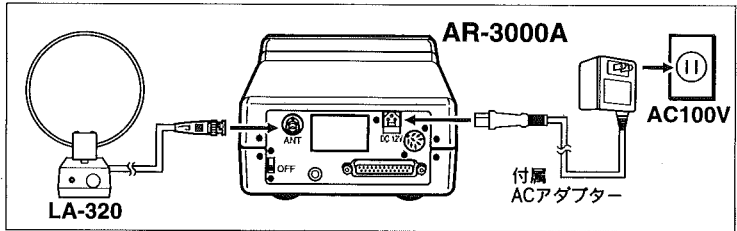
#### (A) 付属のロッドアンテナを接続する

強い電波を聞くときは、付属のロッドアンテナを接続して、お使いください。



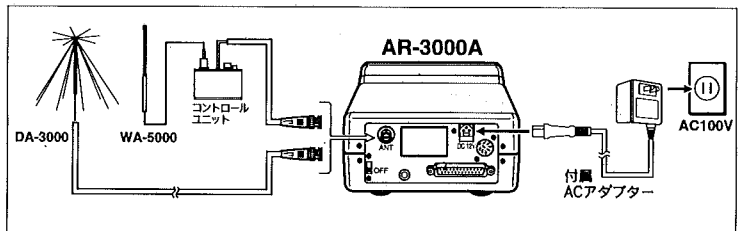
## (B) 室内アンテナを接続する

短波帯(3MHz~30MHz)の遠くの電波や、弱い電波を受信するとき、アンテナを室内に置きたいときは、別売アクセサリーのループアンテナ(LA-320)を接続して、お使いください。



## (C) 屋外アンテナを接続する

海外の電波や、微弱な電波を受信したい場合は、別売アクセサリーの広帯域ディスコーンアンテナ(DA-3000), または、広帯域受信専用屋外アンテナ(WA-5000)を接続すると、優れた受信性能を発揮します。本機の受信帯域である100kHz~2036MHzを1本のアンテナでカバーします。

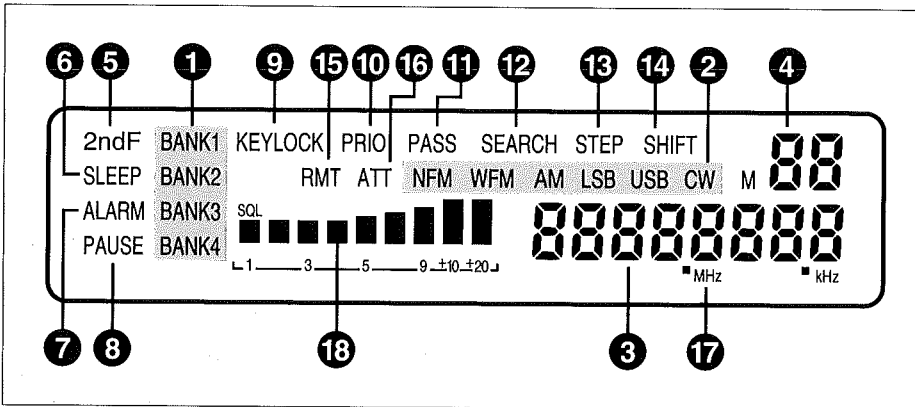


## 〔4〕 受信機の各部の名称とはたらき

受信機の操作方法を覚えるには、各部の名称と、そのはたらきを知る必要があります。本機の1つのキーには、1～3の機能が割り当てられていますので、それぞれのキーの説明ページを参照してください。

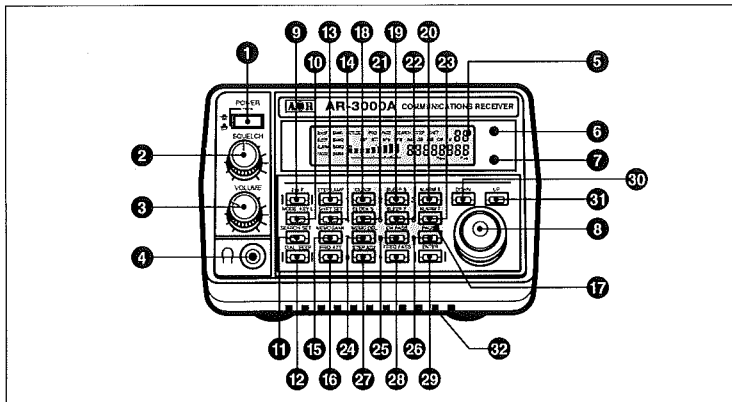


## 4-1 ディスプレイ部の名称



- |   |                        |
|---|------------------------|
| ①—〈BANK(1, 2, 3, 4)〉表示部                     | ⑩—〈PRIO〉表示部            |
| ②—MODE(〈NFM〉〈WFM〉〈AM〉<br>〈LSB〉〈USB〉〈CW〉)表示部 | ⑪—〈PASS〉表示部            |
| ③—周波数表示部                                    | ⑫—〈SEARCH〉表示部          |
| ④—メモリー表示部                                   | ⑬—〈STEP〉周波数(10倍モード)表示部 |
| ⑤—〈2nd F〉表示部                                | ⑭—〈SHIFT〉表示部           |
| ⑥—〈SLEEP〉表示部                                | ⑮—〈RMT〉表示部             |
| ⑦—〈ALARM〉表示部                                | ⑯—〈ATT〉表示部             |
| ⑧—〈PAUSE〉表示部                                | ⑰—ダイヤルつまみスロー表示部        |
| ⑨—〈KEYLOCK〉表示部                              | ⑱—信号強度表示部 (☞ p.54)     |

## 4-2 前面各部の名称とはたらき



- |                                 |                          |
|---------------------------------|--------------------------|
| ①—電源スイッチ                        | ①⑦—テンキー部 ②p12            |
| ②—スケルチつまみ ②p27                  | ①⑧—1 (CLOCK ②p40) キー     |
| ③—音量つまみ                         | ①⑨—2 (SLEEP.S ②p41) キー   |
| ④—ヘッド(イヤ)ホーン端子 ②p44             | ①⑩—3 (ALARM.S ②p43) キー   |
| ⑤—ディスプレイ(LCD)部                  | ①⑪—4 (CLOCK.S ②p39) キー   |
| ⑥—ステップ周波数<br>10倍モードキー ②p12      | ①⑫—5 (SLEEP.T ②p40) キー   |
| ⑦—ダイヤルつまみスローキー ②p12             | ①⑬—6 (ALARM.T ②p42) キー   |
| ⑧—ダイヤルつまみ ②p12                  | ①⑭—7 (MEMO.DEL ②p29) キー  |
| ⑨—2nd Fキー ②p11                  | ①⑮—8 (CH.PASS ②p28) キー   |
| ⑩—MODE ②p11 (KEY.L ②p11) キー     | ①⑯—9 (PAUSE ②p35) キー     |
| ⑪—SEARCH ②p22 (SET ②p22, 23) キー | ①⑰—0 (STEP ADJ ②p33) キー  |
| ⑫—DIAL ②p15 (BEEP ②p11) キー      | ①⑱—・ (FREQ.PASS ②p37) キー |
| ⑬—STEP ②p32 (LAMP ②p11) キー      | ①⑲—ENTERキー ②p12          |
| ⑭—SHIFT ②p34 (SET ②p34) キー      | ①⑳—DOWNキー ②p12           |
| ⑮—MEMO ②p26 (BANK ②p11) キー      | ①㉑—UPキー ②p12             |
| ⑯—PRIO ②p30 (ATT ②p11, 31) キー   | ①㉒—内蔵スピーカ                |

※ ( )内は、セカンド・ファンクションキー作動時のキーです。  
②は説明ページ。

- ◆ ⑨— **(2nd F)** セカンド・ファンクションキー  
このキーを押すと、ディスプレイ部に、〈2nd F〉の表示がされ、セカンド・ファンクションキー(白色の文字のキー)が作動します。セカンド・ファンクションキーを作動させたいときは、先にこのキーを押してください。
- ◆ ⑩— **(KEY.L)** キーロックキー  
各種キーの動作をストップさせるときに使用します。**(2nd F)** キーを先に押してから、**(KEY.L)**を押します。キーロックしているときは、ディスプレイ部に〈KEYLOCK〉と表示が出ます。キーロックを解除するときは、同じ操作をもう一度します。
- ◆ ⑪— **(MODE)** モードキー  
受信モード(NFM, WFM, AM, LSB, USB, CW)を選択するときに使います。**(MODE)** キーを押すと、受信モード以外の表示が消えるので、受信したい受信モードが表示されるまで**(UP/DOWN)** キーを押します。最後に**(ENTER)** キーを押して確定させます。
- ◆ ⑫— **(BEEP)** ビープキー  
各種キーを押したときに出るビープ音を、ON/OFFするときに使います。
- ◆ ⑬— **(LAMP)** ランプキー  
ディスプレイ部のバックライトを、ON/OFFするときに使います。
- ◆ ⑭— **(BANK)** バンクキー  
1～4のバンクを切り替えるときに使います。まず、**(2nd F)** キー、次に、**(BANK)** キーを押すと、ディスプレイ部の〈BANK〉の表示が点滅します。使いたいバンクの番号(1～4)を、**(UP/DOWN)** キーを押して、選びます。最後に**(ENTER)** キーを押して、確定させます。
- ◆ ⑮— **(ATT)** アッテネーターキー  
アンテナ入力の減衰器(アッテネーター)を、ON/OFFするときに使います。ONのときは、ディスプレイ部に〈ATT〉と、表示が出ます。また、1秒以上押し続けると、インターバル・タイムの設定モード(※p.31)になります。

◆17—テンキー部(0～9 キー, . キー)

周波数とメモリー・チャンネルの入力をするときに使うキーです。小数点(.) キーは、受信周波数のときはMHz単位で、ステップ周波数のときはkHz単位で入力するときに押します。

◆29—(ENTER) エンターキー

受信周波数、受信モード、サーチ、メモリー・チャンネル、シフト周波数、ステップ周波数を入力したあと、そのデータを確定させるときに使うキーです。

◆30—(DOWN) ダウンキー

◆31—(UP) アップキー

(DOWN) キーと (UP) キーを合わせて、(UP/DOWN) キーといいます。説明の中で、この表示のあるときは、どちらかのキーを押すことを意味します。ともに、受信周波数の設定(ステップ周波数ずつUP/DOWNする)、メモリー・チャンネルの選択、受信モードの設定、バンクの設定、シフト周波数のUP/DOWNを設定するときに使うキーです。

また、ダイヤルモード(⇒p.15)のとき、(UP/DOWN) キーを1秒以上押し続けると、ダイヤル・サーチモード(⇒p.20)になり、(MEMO) キーを押したあと、(UP/DOWN) キーを、1秒以上押し続けると、メモリー・スキャンモード(⇒p.27)になります。

◆6—ステップ周波数10倍モードキー

このキーを押すと、〈STEP〉の表示がされ、ステップ周波数が10倍になります。もう一度押すと、元に戻ります。(⇒p.18)

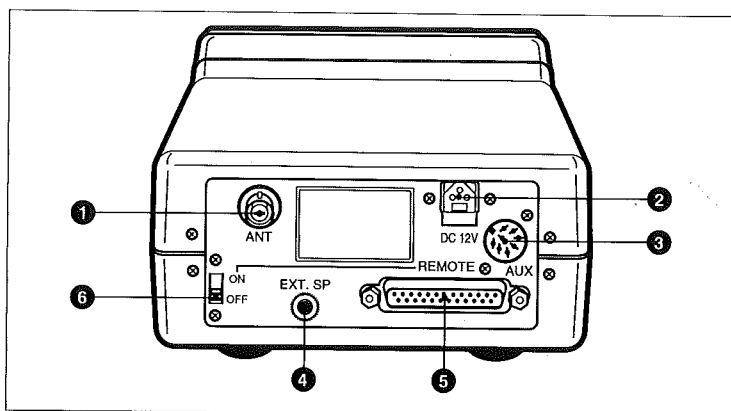
◆7—ダイヤルつまみスローキー

このキーを押すと、〈MHz〉の表示が消え、ダイヤルつまみの動きが1/5のスピードになります。周波数をゆっくり合わせたいときに使うと便利です。もう一度押すと、元に戻ります。

◆8—ダイヤルつまみ

周波数の同調、メモリー・チャンネルの選択、バンクや受信モードの選択などに使います。軽い力で、滑らかな動きをしますので、特に、周波数を合わせるときに重宝します。バンクや、受信モードの選択のときは、(UP/DOWN) キーを使った方が、合わせやすいでしょう。

## 4-3 後面各部の名称とはたらき

◆ ①— **ANT** アンテナ端子

アンテナを接続する端子です。アンテナは、BNC型同軸コネクタタイプのもので、お使いください。

◆ ②— **DC 12V** 直流12V電源コンセント

本機の電源は、直流12V専用です。付属のACアダプターか、直流12V電源に接続した付属のDCコードをお使いください。

◆ ③— **AUX** 音声自動録音用DIN端子 (※p.45)

テープレコーダーに音声を自動録音させるときに、使用します。

◆ ④— **EXT. SP** 外部スピーカー端子 (※p.44)

外部スピーカーを接続する端子です。外部スピーカーを接続すると、内蔵スピーカーからの音声は出ません。

◆ ⑤— **REMOTE** リモートコントロール用RS-232C端子 (※p.48)

本機をRS-232Cを介して、パソコンでリモートコントロールするときの端子です。

◆ ⑥— **ON/OFF** リモート端子スイッチ

RS-232Cリモート端子をON/OFFするスイッチです。ONにすると、パソコンの電源のON/OFFに関係なく、受信機本体でスケルチつまみ、音量つまみ、電源スイッチ以外は操作できなくなります。使わないときは、必ずOFFにしておきましょう。

## 〔5〕 受信機の操作方法

### 5-1 基本操作

- ① 付属のロッドアンテナを後面のアンテナ端子に接続してください。遠くの電波や、微弱な電波を聞く場合は、弊社の別売アクセサリーDA-3000ディスコーンアンテナや、WA-5000受信専用屋外アンテナ等をご使用ください。
- ② 電源にDC(直流)12Vを正しく接続してください。AC(交流)アダプターを使用するときは、コンセントにきちんと差し込んでください。
- ③ 電源スイッチを入れる前に、スケルチつまみを時計方向の12時の位置に(☞p.27)、また、音量つまみを時計方向の10時くらいの位置にしてください。
- ④ 電源スイッチを入れてください。そのとき、ディスプレイ部に〈KEYLOCK〉(☞p.11)、〈PRIO〉(☞p.30)、〈SEARCH〉(☞p.20)、〈RMT〉(☞p.48)、〈PAUSE〉(☞p.36)の表示がされていないかどうか、確認してください。もし、表示されている場合は、取扱説明書の該当ページを参照して、この表示をOFFにしてください。

◆ 以上の基本操作をしたあと、受信周波数の設定をします。本機には、いろいろな選局モードが用意されていますので、それぞれの選局モードにおける操作方法を十分理解し、活用してください。



▲各種のキーは人差し指で軽く押す



▲ダイヤルつまみは周波数の同調を取るときに便利



## 5-2 各選局モードの操作法

### (A) ダイヤルモード

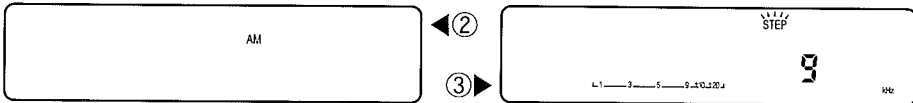
**[DIAL]** キーを押したときの、選局モードをダイヤルモードといいます。受信周波数は、テンキー、**[UP/DOWN]** キー、または、ダイヤルつまみによって、変更することができます。

#### A-1 テンキーによるダイレクト選局

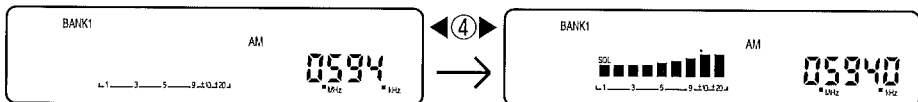
ラジオ放送を聞くなど、受信したい周波数が、あらかじめわかっている場合は、テンキーによるダイレクト選局が便利です。

#### ◆例1 AM 594kHz(NHK東京第1放送)を選局する場合

- ① **[DIAL]** キーを押す。
- ② **[MODE]** キーを押す。LCDの表示が <AM> になるように **[UP/DOWN]** キーか、ダイヤルつまみで合わせる、合ったところで **[ENTER]** キーを押す。以後、それぞれの設定を決定するときには、必ず、**[ENTER]** キーを押すのを忘れないようにしましょう。



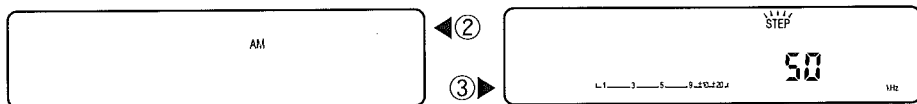
- ③ **[STEP]** **[9]** **[ENTER]** キーを順に押す。中波のラジオ放送のステップ周波数は9kHzなので、これに設定しておく、以後の選局に便利です(※p.32)。ここでは、省略してもかまいません。右上の図の<STEP>の表示の上のマークは点滅することを表します。
- ④ **[.]** **[5]** **[9]** **[4]** **[ENTER]** キーを順に押す。これで、594kHzが入力され、もし感度があれば、音声が聞こえてきます。1MHz未満の周波数を入力するときは、始めに**[.]**キーを押します。キー入力をまちがえたときは**[ENTER]**キーを押して、始めから入力しなおしてください。



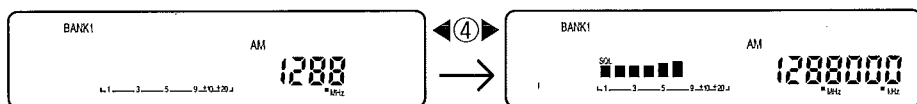
〔5〕受信機の操作方法

◆例2 AM 128.8MHz(東京国際空港ATIS)を選局する場合

- ① **[DIAL]** キーを押す。
- ② **[MODE]** キーを押す。LCDの表示が <AM> になるように **[UP/DOWN]** キーで合わせる。**[ENTER]** キーを押す。

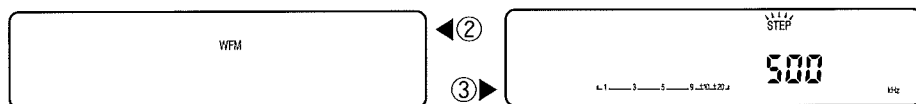


- ③ **[STEP]** **[5]** **[0]** **[ENTER]** キーを順に押す。ステップ周波数を、50 kHzに設定します。ここでは、省略してもかまいません。
- ④ **[1]** **[2]** **[8]** **[.]** **[8]** **[ENTER]** キーを順に押す。これで、128.8MHzが入力され、もし感度があれば、音声聞こえてきます。

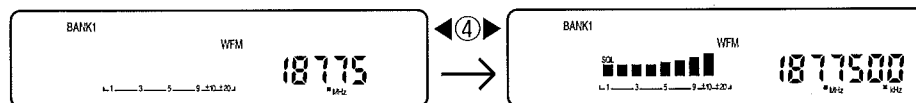


◆例3 WFM 187.75MHz(VHF テレビ 6ch 音声周波数)を選局する場合

- ① **[DIAL]** キーを押す。
- ② **[MODE]** キーを押す。LCDの表示が <WFM> になるように **[UP/DOWN]** キーで合わせる。**[ENTER]** キーを押す。

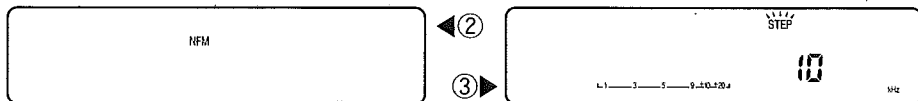


- ③ **[STEP]** **[5]** **[0]** **[0]** **[ENTER]** キーを順に押す。テレビ音声のステップ周波数は、6MHzなので、ここでのステップ周波数を、500kHzに設定します。ここでは、省略してもかまいません。
- ④ **[1]** **[8]** **[7]** **[.]** **[7]** **[5]** **[ENTER]** キーを順に押す。これで、187.75 MHzが入力され、もし感度があれば、音声聞こえてきます。

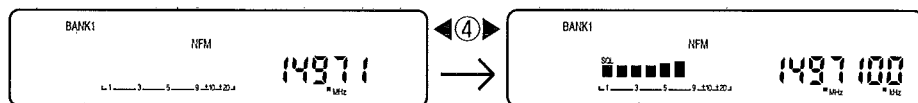


## ◆例4 NFM 149.71MHz(東京消防庁受令波)を選局する場合

- ① **[DIAL]** キーを押す。
- ② **[MODE]** キーを押す。LCDの表示が <NFM> になるように **[UP/DOWN]** キーで合わせる。**[ENTER]** キーを押す。

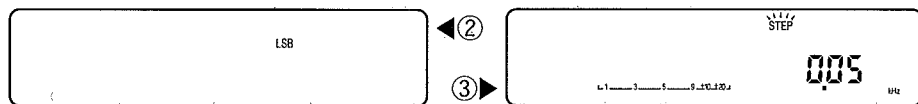


- ③ **[STEP]** **[1]** **[0]** **[ENTER]** キーを順に押す。ステップ周波数を、10 kHzに設定します。ここでは、省略してもかまいません。
- ④ **[1]** **[4]** **[9]** **[.]** **[7]** **[1]** **[ENTER]** キーを順に押す。これで、149.71 MHzが入力され、もし感度があれば、音声聞こえてきます。

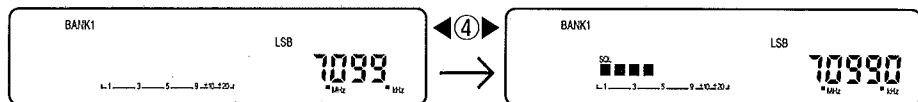


## ◆例5 LSB 7.099MHz(アマチュア無線局)を選局する場合

- ① **[DIAL]** キーを押す。
- ② **[MODE]** キーを押す。LCDの表示が <LSB> になるように **[UP/DOWN]** キーで合わせる。**[ENTER]** キーを押す。



- ③ **[STEP]** **[.]** **[0]** **[5]** **[ENTER]** キーを順に押す。ステップ周波数を、50Hz(=0.05kHz)に設定します。ステップ周波数は、kHzの単位で入力するので、ここでは、始めに **[.]** キーを押します。ここでは、ステップ周波数の設定を省略してもかまいません。
- ④ **[7]** **[.]** **[0]** **[9]** **[9]** **[ENTER]** キーを順に押す。これで、7.099MHzが入力され、もし感度があれば、音声聞こえてきます。

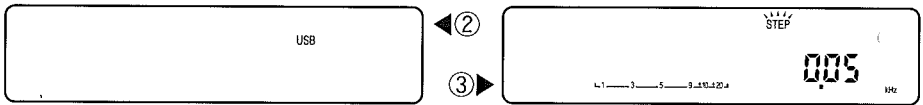


## A-2 ダイヤルつまみによるマニュアル選局

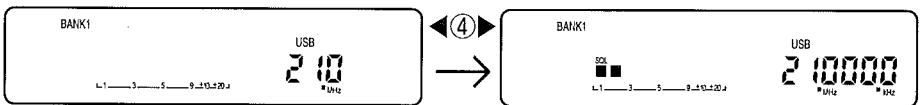
受信したい局の周波数が正確に分からないときや、アマチュア無線のように、バンドが決められ、その中の局を探すときに使います。

### ◆例1 21MHzのUSBを50Hzステップで受信する場合

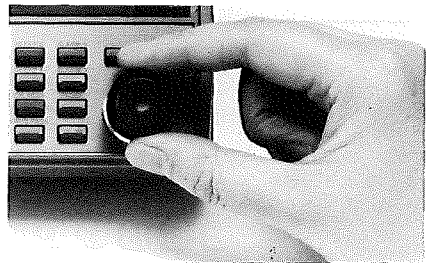
- ① **[DIAL]** キーを押す。
- ② **[MODE]** キーを押す。LCDの表示が <USB> になるように **[UP/DOWN]** キーで合わせる。 **[ENTER]** キーを押す。



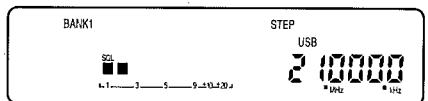
- ③ **[STEP]** **[0]** **[5]** **[ENTER]** キーを順に押す。ステップ周波数を、50Hzに設定します。
- ④ **[2]** **[1]** **[0]** **[ENTER]** キーを順に押す。21MHzが入力されました。ここで、**[0]** は省略できます。



- ⑤ ダイヤルつまみでゆっくりと同調を取ります。時計まわりにつまみをまわすと、周波数がアップし、逆にまわすとダウンします。
- ⑥ このとき、ステップ周波数10倍モードキーを押すと、LCDに<STEP>と表示され、10倍の500Hzステップで同調します。もう一度、ステップ周波数10倍モードキーを押すと、<STEP>の表示が消え、10倍モードが解除されます。



10倍モードキーを押す▶



## ◆例2 76～90MHz帯のFM放送を受信する場合

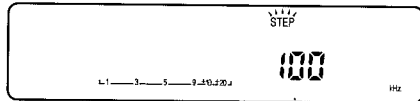
- ① **DIAL** キーを押す。
- ② **MODE** キーを押す。LCDの表示が〈WFM〉になるように  
**UP/DOWN** キーで合わせる。**ENTER** キーを押す。

②▶



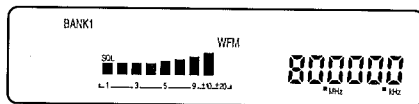
- ③ **STEP 100 ENTER** キーを順に押す。ステップ周波数を、  
100kHzに設定します。

③▶



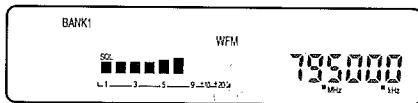
- ④ **80 ENTER** キーを順に押す。ここでは、とりあえず、中間の  
周波数80MHzを入力します。

④▶

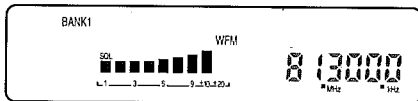


- ⑤ ダイアルつまみを左右にまわし、聞きたい局を選びます。

ダイアルを左にまわすと  
周波数がダウンする▶



ダイアルを右にまわすと  
周波数がアップする▶



※ 上の⑤の図の数字のように、薄く表示した周波数は、状況によってちがってきます。1つの例として考えてください。

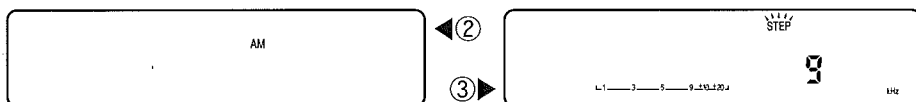
※ AM, USB, LSB, CWモードのとき、ダイアルつまみで選局すると、スケルチがONであっても、スケルチが開いて、弱い電波を受信することができます。

## (B) ダイヤル・サーチモード

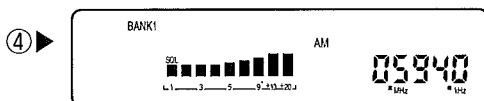
ダイヤルモードのとき、**UP** キー、または **DOWN** キーを1秒くらい押すと、ダイヤル・サーチモードに入ることができます。サーチするステップ周波数は、50Hzから999.95kHzの範囲で選べます。

### ◆例1 594kHzから上側に9kHzでサーチする場合(中波放送受信)

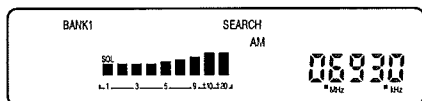
- ① **DIAL** キーを押す。
- ② **MODE** キーを押す。LCDの表示が <AM> になるように **UP/DOWN** キーで合わせる。 **ENTER** キーを押す。



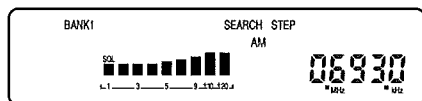
- ③ **STEP** **9** **ENTER** キーを順に押す。ステップ周波数を、9kHzに設定します。
- ④ **0** **5** **9** **4** **ENTER** キーを順に押す。これで594kHzが入力されました。



- ⑤ **UP** キーを1秒くらい押す。LCDに<SEARCH>と表示されて、サーチを開始します。なお、サーチしているとき、ステップ周波数10倍モードキーを押すと、LCDに<STEP>と表示され、10倍の90kHzの周波数間隔でサーチします。



▲ **UP** キーを1秒くらい押す



▲ 10倍モードキーを押す

- ⑥ ダイヤル・サーチを中止するときは、**DIAL** キーを押します。また、ダイヤル・サーチを再開させるときは、**UP/DOWN** キーを1秒くらい押します。

## ◆例2 431MHzから上側に10kHzでサーチする場合(アマチュア無線)

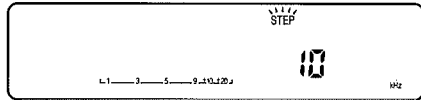
- ① **DIAL** キーを押す。  
 ② **MODE** キーを押す。LCDの表示が <NFM> になるように **UP/DOWN** キーで合わせる。**ENTER** キーを押す。

②▶



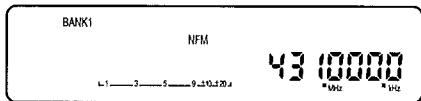
- ③ **STEP** **1** **0** **ENTER** キーを順に押す。ステップ周波数を、10kHzに設定します。

③▶

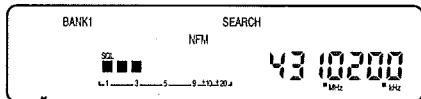


- ④ **4** **3** **1** **ENTER** キーを順に押す。これで、431MHzが入力されました。

④▶



- ⑤ **UP** キーを1秒くらい押す。LCD上に <SEARCH> と表示されて、サーチを開始します。感度があつたところで、サーチが止まります。

**UP** キーを1秒くらい押す▶

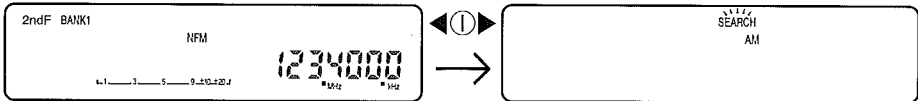
## (C) プログラム・サーチモード

あらかじめ受信周波数の下限と上限を決めて、その間を繰り返しサーチするモードを、プログラム・サーチモードといいます。

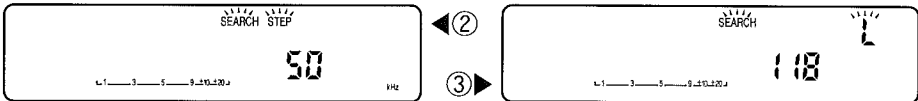
### C-1 プログラム・サーチによる選局

◆例1 118～136MHzの航空移動無線(AM)を、50kHz間隔でサーチする場合

- ① **2nd F** **SEARCH SET** キーを順に押す。LCD上の〈SEARCH〉の表示が点滅します。LCDの表示が〈AM〉になるように、**UP/DOWN** キーで合わせる。**ENTER** キーを押す。〈STEP〉の表示が点滅するので、ステップ周波数の50kHzを入力します。

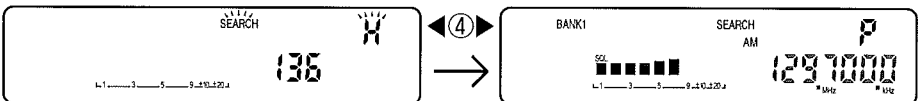


- ② **5 0** **ENTER** キーを順に押す。メモリー表示部に〈L〉と表示されるので、低い周波数を入力します。



- ③ **1 1 8** **ENTER** キーを順に押す。メモリー表示部に〈H〉と表示されるので、高い周波数を入力します。

- ④ **1 3 6** **ENTER** キーを順に押す。メモリー表示部に〈P〉と表示され、自動的に低い周波数から、高い周波数の方向へ、サーチを開始します。



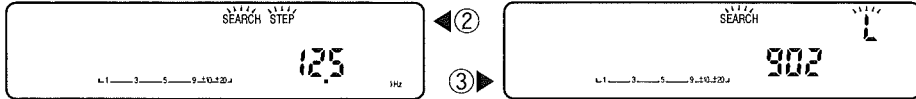
- ⑤ 信号をキャッチして、サーチが止まった場合、その信号を聞きたくなければ、ダイヤルつまみをまわすか(※p.19⑤)、**UP/DOWN** キーを押して、サーチを再開させます。

- ⑥ サーチを中止する場合、**SEARCH** キーを押します。サーチを再開する場合、もう一度 **SEARCH** キーを押します。

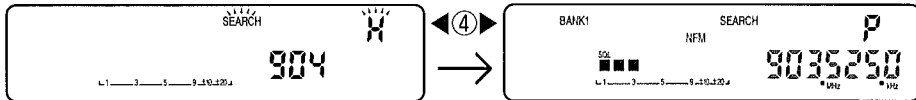


## ◆例 2 902~904MHzのパーソナル無線(NFM)を、12.5kHz間隔でサーチする場合

- ① **[2nd F]** **[SEARCH SET]** キーを順に押す。LCDの表示が<NFM>になるように、**[UP/DOWN]** キーで合わせる。**[ENTER]** キーを押す。
- ② **[1]** **[2]** **[.]** **[5]** **[ENTER]** キーを順に押す。メモリー表示部に <L> と表示されるので、低い周波数を入力します。



- ③ **[9]** **[0]** **[2]** **[ENTER]** キーを順に押す。メモリー表示部に <H> と表示されるので、高い周波数を入力します。
- ④ **[9]** **[0]** **[4]** **[ENTER]** キーを順に押す。メモリー表示部に <P> と表示され、自動的に低い周波数から、高い周波数の方向へ、サーチを開始します。

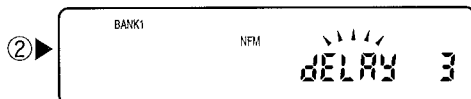


## C-2 デイレイ・タイムの設定

ダイヤル・サーチ、プログラム・サーチ、または、メモリー・スキャンが作動しているとき、信号を受信して、その信号が停止してから、次の信号をサーチしに行くまでの時間を、デイレイ・タイム (DELAY TIME) といいます。本機では、このデイレイ・タイムを0~9秒の範囲で設定することができます。

## ◆例 デイレイ・タイムを、3秒に設定する

- ① **[2nd F]** **[SEARCH SET]** キーを1秒以上押す。<DELAY>の表示が点滅するので、デイレイ・タイムを、0~9秒の範囲で選びます。
- ② **[3]** **[ENTER]** キーを順に押す。これで、3秒の設定ができます。



## (D) メモリー・チャンネルモード

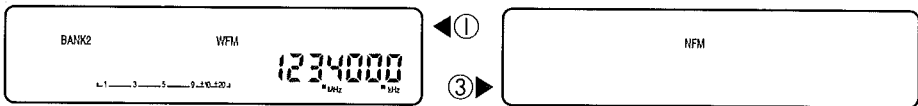
AR-3000Aには、4つのバンクに、それぞれ100チャンネルずつ、合計400チャンネルのメモリーが用意されています。よく受信する局の周波数をメモリー・チャンネルに入力しておけば、選局がスピーディーに行えます。メモリー・チャンネルは、内蔵のリチウム電池で、バックアップされていますので、電源コードをはずしても、内容は保持されます。

### D-1 メモリー・チャンネルの入力

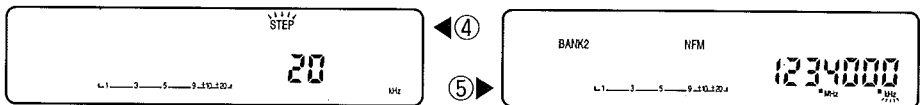
1つのバンクには、00～99までの100チャンネルがメモリー可能です。ただし、チャンネル00は、プライオリティ(優先)チャンネル用のメモリーですので、空けておきましょう。(※p.30)

◆例1 ダイレクト選局で選んだ、NFM150.85MHz(日本道路公団周波数)を、バンク2のチャンネル01に、メモリーする場合

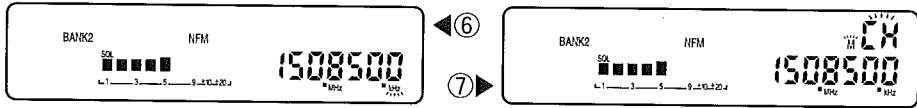
- ① **[2nd F]** **[BANK]** キーを順に押す。LCDの表示が **<BANK2>** になるように、**[UP/DOWN]** キーを押す。**[ENTER]** キーを押す。
- ② **[DIAL]** キーを押す。
- ③ **[MODE]** キーを押す。LCDの表示が **<NFM>** になるように、**[UP/DOWN]** キーを押す。**[ENTER]** キーを押す。



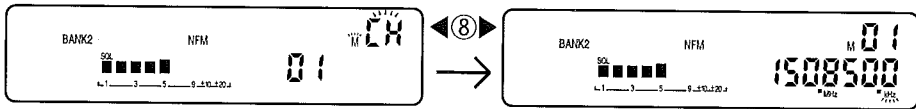
- ④ **[STEP]** **[2]** **[0]** **[ENTER]** キーを順に押す。ステップ周波数を、20kHzに設定します。
- ⑤ **[2nd F]** **[STEP ADJ]** キーを順に押す。スタートした周波数から確実にステップ周波数だけ上下させたいときは、周波数を入力する前に、この操作をしておきます。(※p.33)



- ⑥ **1 5 0 . 8 5** **ENTER** キーを順に押す。  
 ⑦ **ENTER** キーを押す。〈MCH〉の表示が点滅するので、メモリーしたいチャンネル番号を入力します。

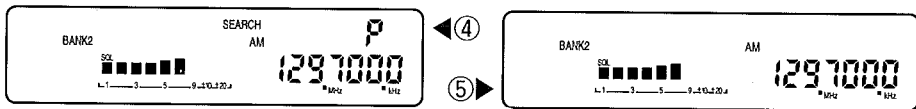


- ⑧ **0 1** **ENTER** キーを順に押す。これで、バンク2のチャンネル01に、NFM150.85MHzがメモリーされました。

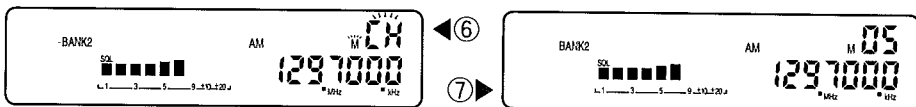


◆例2 バンク2のサーチモードで受信した、AM 129.7MHz(全日空カンパニーラジオ)をチャンネル05に、メモリーする場合

- ①～④ 略(≒p.22例1)  
 129.7MHzで、サーチが止まったとします。  
 ⑤ **DIAL** キーを押す。〈SEARCH〉の表示が消えます。



- ⑥ **ENTER** キーを押す。〈MCH〉の表示が点滅するので、メモリーしたいチャンネル番号を入力します。  
 ⑦ **0 5** **ENTER** キーを順に押す。これで、チャンネル05に、AM 129.7MHzがメモリーされました。

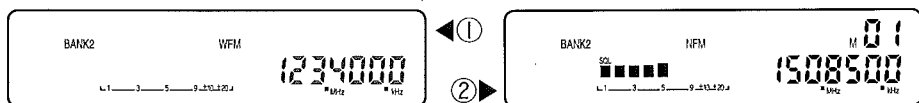


## D-2 メモリー・チャンネルによる選局

メモリー・チャンネルによる選局のしかたには、テンキーで直接呼び出す方法と、ダイヤルつまみか、**UP/DOWN** キーで希望するチャンネルを呼び出す方法があります。

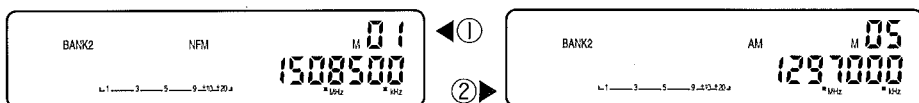
### ◆例1 バンク2のチャンネル01を、テンキーで、直接呼び出す場合

- ① **2nd F** **(BANK)** キーを順に押す。LCDの表示が**〈BANK2〉**になるように、**UP/DOWN** キーを押す。**(ENTER)** キーを押す。
- ② **0** **1** **(MEMO)** キーを順に押す。もし、p.24 例1をメモリーしてあれば、チャンネル01にメモリーされた、NFM 150.85MHzが、呼び出されます。

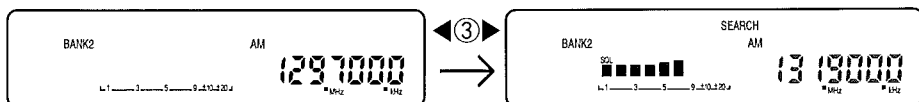


### ◆例2 ダイヤルつまみか、**UP/DOWN** キーで、希望するチャンネルを呼び出す場合

- ① **(MEMO)** キーを押す。
- ② ダイヤルつまみか、**UP/DOWN** キーで、希望するチャンネルを呼び出す。



- ③ 呼び出した周波数をもとに、サーチしたいときは、まず<sup>\*</sup>**(DIAL)** キーを押して、ダイヤルモードにします。次に、**UP/DOWN** キーを1秒くらい押して、ダイヤル・サーチモードに入ります。



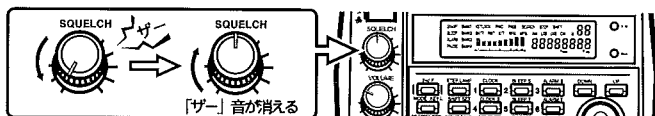
## (E) メモリー・スキャンモード

一つのバンクの中の、メモリー・チャンネルを繰り返しスキャンさせるのが、メモリー・スキャンモードです。

### E-1 スケルチの調整

スキャンの動作中、信号を受信したときだけ、スキャンをストップさせるには、スケルチの調整が必要です。

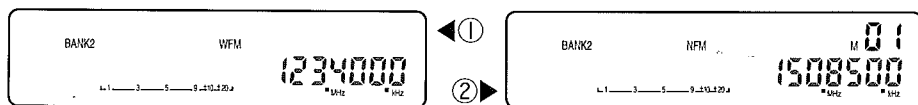
まず、スケルチつまみを一番左までまわし、「ザー」という音を出します。次に、つまみを少しずつ右にまわし、「ザー」という音が消える位置で止めます。この位置に、スケルチつまみを設定しておく、信号を受信したときだけ、スキャンがストップします。



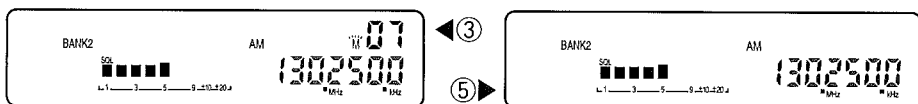
### E-2 メモリー・スキャンによる選局

#### ◆例 バンク2のメモリーをスキャンする場合

- ① **[2nd F]** **[BANK]** キーを順に押す。LCDの表示が**<BANK2>**になるように、**[UP/DOWN]** キーを押す。**[ENTER]** キーを押す。
- ② **[MEMO]** キーを押す。



- ③ **[UP/DOWN]** キーを1秒くらい押す。LCD上の**<M>**の表示が点滅し、スキャンが始まります。
- ④ 信号を受信し、スキャンがストップしたとき、スキャンを再開させるには、再び、**[UP/DOWN]** キーを1秒くらい押す。
- ⑤ メモリー・スキャンを中止するときは、**[MEMO]** キーを押す。

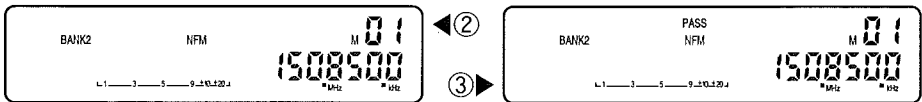


### E-3 メモリー・チャンネルのパス

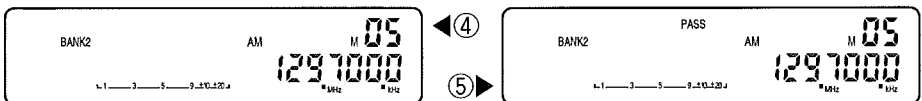
メモリー・スキャンするとき、スキャンさせたくないメモリー・チャンネルを、パスさせることができます。この機能を使うと、その時、受信したい局だけを効率的に選局できます。

#### ◆例1 バンク2のチャンネル01と05をパスさせる場合

- ① **2nd F** **BANK** キーを順に押す。LCDの表示が**〈BANK2〉**になるように、**UP/DOWN** キーを押す。**ENTER** キーを押す。
- ② **0** **1** **MEMO** キーを順に押す。チャンネル01のメモリーを、まず呼び出す。
- ③ **2nd F** **CH.PASS** キーを順に押す。LCD上に**〈PASS〉**と表示される。これで、チャンネル01をパスさせることができます。



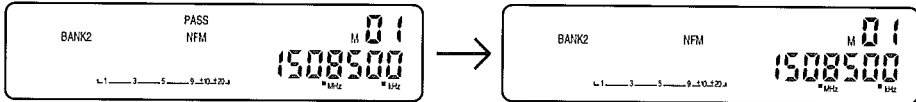
- ④ 次に、ダイヤルつまみか、**UP/DOWN** キーで、チャンネル05を呼び出す。
- ⑤ **2nd F** **CH. PASS** キーを順に押す。LCD上に**〈PASS〉**と表示される。これで、チャンネル05をパスさせることができます。



## ◆例2 バンク2のチャンネル01のパスを解除させる場合

①～③ (p.28の例1と同じ操作をする)

今までLCD上に表示されていた〈PASS〉の表示が消え、パスを解除させることができます。

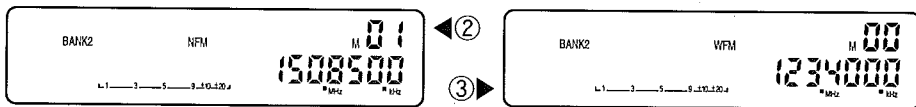


## E-4 メモリー・チャンネルの取り消し方

メモリーされているチャンネルが不要になって、取り消しをしたい場合は、次のようにします。

## ◆例 バンク2のチャンネル01のメモリーを取り消す場合

- ① **2nd F** **BANK** キーを順に押す。LCDの表示が〈BANK2〉になるように、**UP/DOWN** キーを押す。**ENTER** キーを押す。
- ② **0** **1** **MEMO** キーを順に押す。チャンネル01のメモリーを、まず呼び出す。
- ③ **2nd F** **MEMO.DEL** キーを順に押す。これで、チャンネル01のメモリーが、消えました。



## (F) プライオリティ・チャンネルモード

現在受信している局とは別に、常に聞きのがしたくない局を、優先的に受信することのできるモードが、プライオリティ（優先）・チャンネルモードです。

### F-1 プライオリティ・チャンネルによる選局

このモードに入るには、常時受信していきたい局の周波数と、受信モードを、チャンネル00に、入力しておく必要があります。

次に、**[PRIO]** キーを押すと、LCD上に〈PRIO〉と表示され、インターバル・タイム(≒p.31)ごとに、チャンネル00から信号が出ているかどうか調べます。もし、信号が出ていれば、他の局を受信していても、強制的にチャンネル00を受信するようになります。

そして、チャンネル00の信号が途絶えると、また、元の局を受信し、インターバル・タイムごとに、チャンネル00をモニターします。

このモードを解除するには、もう一度、**[PRIO]** キーを押します。

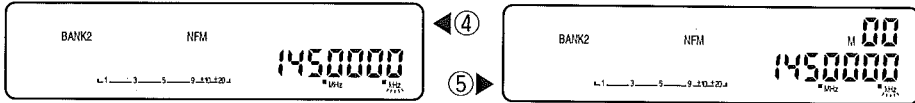
プライオリティ・チャンネルは、4つのバンクに、それぞれチャンネル00があるので、バンクを切り替えることにより、4つ設定することができます。

◆例 プライオリティ・チャンネルに、NFM145.0MHz(アマチュア無線2mバンド・メインチャンネル)をメモリーして、プライオリティ受信する場合

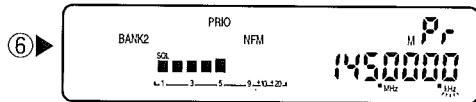
- ① **[MODE]** キーを押す。LCDの表示が〈NFM〉になるように**[UP/DOWN]** キーを押す。**[ENTER]** キーを押す。
- ② **[STEP]** **[2]** **[0]** **[ENTER]** キーを順に押す。ステップ周波数を、20kHzに設定します。
- ③ **[2nd F]** **[STEP ADJ]** キーを順に押す。ステップ・アジャスト機能を設定します(≒p.33)。ここでは、省略してもかまいません。



- ④ **1** **4** **5** **ENTER** キーを順に押す。
- ⑤ **ENTER** **0** **0** **ENTER** キーを順に押す。これでプライオリティ・チャンネル00に、NFM145.0MHzがメモリーされました。

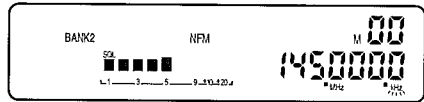


- ⑥ **PRIO** キーを押す。LCD上に <PRIO> と表示され、プライオリティ・チャンネルモードに入ります。



- ⑦ プライオリティ・チャンネルモードを解除したい場合は、もう一度 **PRIO** キーを押します。

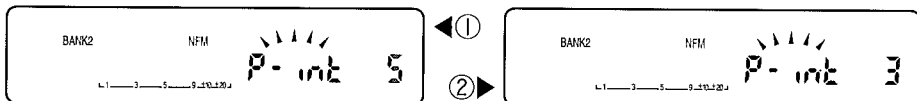
プライオリティ・チャンネルモードを解除すると ▶



## F-2 インターバル・タイムの設定

プライオリティ・チャンネルをチェックしていく時間間隔を、インターバル・タイムといいます。1～19秒の範囲で設定できます。

- ① **2nd F** **ATT** キーを1秒以上押し続ける。<P-int> の表示が点滅するので、インターバル・タイムを、1～19秒の範囲で選びます。
- ② **3** **ENTER** キーを順に押す。これで、3秒の設定ができます。



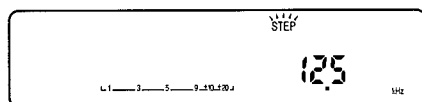
### 5-3 ファンクションキーの使い方

#### (A) ステップ(STEP)キー

周波数を変化させるときの、周波数間隔を設定するためのキーです。50Hz～999.95kHzの範囲で、テンキーにより自由によびます。ステップ周波数10倍モードキーを押すと、設定した周波数の10倍の周波数で作動させることができます。

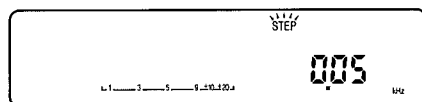
#### ◆例1 12.5kHzのステップ周波数を設定する場合

- ① **[STEP]** キーを押す。LCDの <STEP> の表示が点滅します。
- ② **[1][2][.] [5] [ENTER]** キーを順に押す。ステップ周波数はkHz単位で入力します。これで、ステップ周波数が12.5kHzに設定されました。



#### ◆例2 50Hz(=0.05kHz)のステップ周波数を設定する場合

- ① **[STEP]** キーを押す。LCDの <STEP> の表示が点滅します。
- ② **[.] [0] [5] [ENTER]** キーを順に押す。これで、ステップ周波数が50Hzに設定されました。



**(B) ステップ・アジャスト(STEP ADJUST)キー**

ステップ周波数を設定しても、スタートする周波数によっては、その周波数をもとにステップをきざまないことがあります。

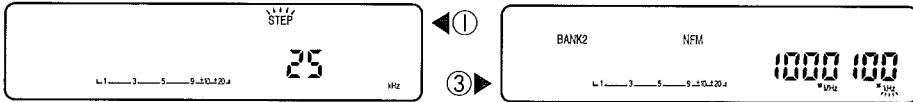
たとえば、25kHzステップで、100.010MHzからスタートすると、100.010→100.025→100.050→100.075…となってしまいます。これは内部で、ステップ周波数の整数倍になるように、受信周波数を調整しているからです。

これを、100.010→100.035→100.060→100.085…というように、現在の受信周波数に、単にステップ周波数だけを増減させるのが、ステップ・アジャストキーです。

ステップ・アジャスト機能を作動させるには、周波数を入力する前に、このキーを押しておきます。この機能がはたらいているときは、LCDの〈KHz〉の表示が点滅します。なお、ステップ・アジャスト機能を設定すると、周波数パス機能(☞p.37)は作動しません。

◆例1 100.01MHzから、25kHzステップで、ステップ・アジャスト機能をはたかせる場合

- ① **STEP** **2** **5** **ENTER** キーを押す。
- ② **2nd F** **STEP ADJ** キーを順に押す。〈KHz〉の表示が点滅します。
- ③ **1** **0** **0** **.** **0** **1** **ENTER** キーを順に押す。



- ④ **UP** キーを押すか、ダイヤルつまみを右にまわす。100.010→100.035→100.060→100.085…というように変化します。



◆例2 ステップ・アジャスト機能を取消する場合

- ① 例1の操作の後、**2nd F** **STEP ADJ** キーを順に押す。ステップ・アジャスト機能が解除され、〈KHz〉が点灯したままになります。
- ② **UP** キーを押すか、ダイヤルつまみを右にまわす。100.010→100.025→100.050→100.075…というように変化します。

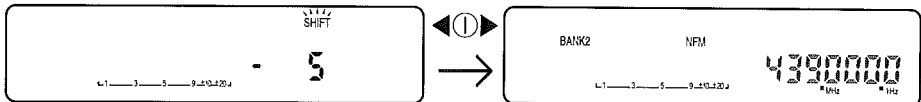
### (C) シフト(SHIFT)キー、シフトセット(SHIFT SET)キー

2つの周波数を使って同時通信をする交信方法があります。普通は基地局側(レピーター方式の場合は、中継局側)に周波数を合わせれば、基地局と移動局双方の音声が届きますが、一部の無線では、基地局側に周波数を合わせても、移動局側が届きません。

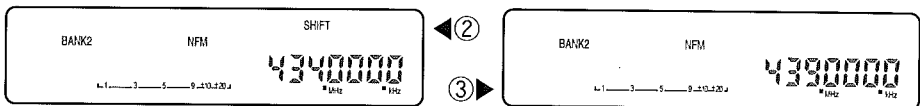
この場合、無線の種類によって、基地局と移動局の間の周波数のシフト幅が決まっているので、それをシフトセットキーを使って、あらかじめ設定しておけば便利です。基地局と移動局は、シフトキーを押すことにより、ワンタッチで移行できます。

#### ◆例1 5MHzをシフトダウンする場合(アマチュア無線のレピーター)

- ① **2nd F** **SHIFT SET** **DOWN** **5** **ENTER** キーを順に押す。シフトする周波数は、MHz単位で入力します。

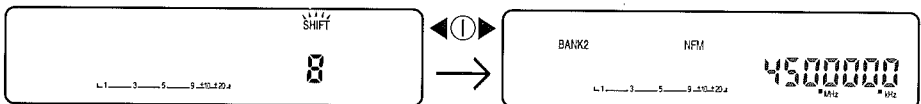


- ② **SHIFT** を押すと、受信周波数より、5 MHz下の周波数に移行します。このとき、<SHIFT> と表示されます。
- ③ もう一度、**SHIFT** を押すと、<SHIFT> の表示が消え、元の受信周波数に戻ります。

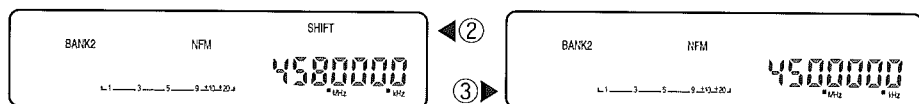


#### ◆例2 8MHzをシフトアップする場合(タクシー無線)

- ① **2nd F** **SHIFT SET** **UP** **8** **ENTER** キーを順に押す。



- ② **[SHIFT]** を押すと、受信周波数より、8MHz上の周波数に移行します。このとき、**<SHIFT>** と表示されます。
- ③ もう一度、**[SHIFT]** を押すと、**<SHIFT>** の表示が消え、元の受信周波数に戻ります。



## (D) ポーズ(PAUSE)キー

ダイヤル・サーチモード、プログラム・サーチモード、メモリー・スキャンモード作動時に、あらかじめ設定した時間（ポーズ・タイム）だけ受信し、その後、次のチャンネル、または、周波数をスキャンさせたいときは、このポーズキーを押し、ポーズ・スキャン機能を作動させます。

### D-1 ポーズ・タイムの設定

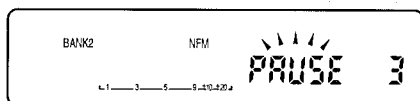
**[2nd F] [PAUSE]** キーを1秒以上押すことで、ポーズ・タイムの設定モードに入ります。ポーズ・タイムは、1～60秒の範囲で、各バンクごとに設定可能です。

#### ◆例 ポーズ・タイムを3秒に設定する場合

- ① **[2nd F] [PAUSE]** キーを1秒以上押す。LCDの周波数の表示位置に**<PAUSE>** の表示が出て、点滅します。



- ② **[3] [ENTER]** キーを順に押す。ポーズ・タイムが3秒に設定されます。



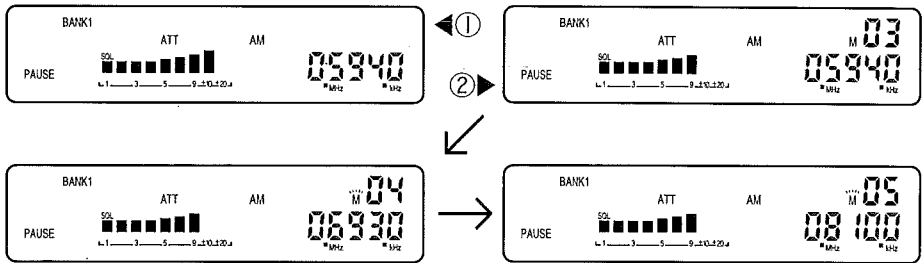
〔5〕受信機の操作方法

D-2 ポーズ・スキャン機能の作動

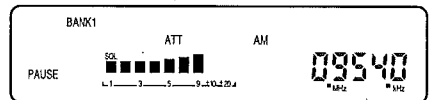
〔2nd F〕〔PAUSE〕キーを順に押すと、LCDの左側に〈PAUSE〉と表示されます。これで、ポーズ・スキャン機能を作動させることができます。

◆例 メモリー・スキャンモードのとき、ポーズ・スキャン機能を作動させる場合  
(ポーズ・タイムを3秒に設定済のとき)

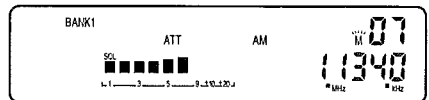
- ① 〔2nd F〕〔PAUSE〕キーを順に押す。〈PAUSE〉と表示され、これで、ポーズ・スキャン機能を作動させる準備ができます。
- ② 〔MEMO〕〔UP/DOWN〕キーを1秒以上押す。〈M〉の表示が点滅し、メモリー・スキャンモードになります。そして、受信した信号を3秒間いては、次のメモリー・チャンネルをスキャンします。



- ③ ずっと聞きたい局があって、ポーズ・スキャン機能を一時中断したいときは、〔DIAL〕キーを押します。また、再開するときは、②の操作をします。



- ④ ポーズ・スキャン機能から、抜け出すには、〔2nd F〕〔PAUSE〕キーを順に押す。〈PAUSE〉の表示が消え、メモリー・スキャンモードだけになります。



## (E) 周波数パス(FREQUENCY PASS)キー

ダイヤル・サーチや、プログラム・サーチをしているとき、受信したくない周波数がでてきます。その周波数をパス・チャンネルに書き込むときに使うのが、このキーです。本機では、この周波数を4つのバンクに100チャンネルずつ、自動的に書き込めるようになっています。また、受信機内部の妨害電波等(☞p.53)をテンキーを使って、メモリーすることにより、サーチの際、パスさせることができます。なお、ダイレクト選局や、マニュアル選局のときは、パスしません。また、ステップ・アジャスト機能(☞p.33)を設定しているときは、周波数パス機能は作動しません。

### E-1 パス・チャンネルの入力(周波数パス機能)

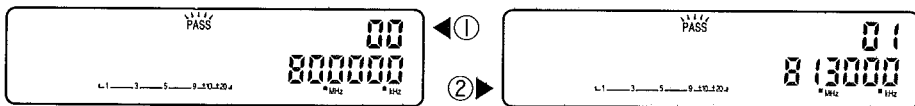
現在受信中の周波数を、パス・チャンネルに入力するには、次の操作をします。

- ① **[2nd F] [FREQ. PASS]** キーを順に押す。自動的に、パス・チャンネル(00~99)の空白チャンネルを探し、そこに現在受信中の周波数を自動的に書き込みます。
- ② サーチをされていて、受信したくない周波数が、いくつも出てきたら、そのたびに、①の操作を繰り返します。ここに書き込まれた周波数は、サーチの際、パスされます。

### E-2 パス・チャンネルの確認

パス・チャンネルに入力された周波数データを確認するには、次の操作をします。

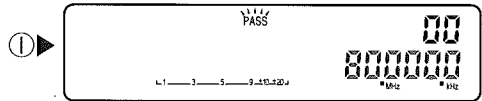
- ① **[2nd F] [FREQ. PASS]** キーを1秒以上押す。〈PASS〉の表示が点滅します。
- ② **[ENTER]** キーを押すごとに、パス・チャンネルのデータが確認できます。



### E-3 パス・チャンネルの削除

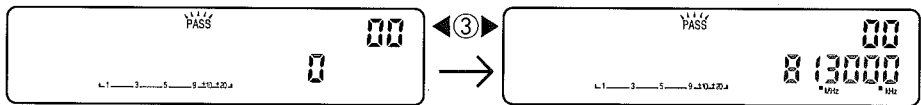
パス・チャンネルに入力された周波数データを削除するには、次の操作をします。

- ① **[2nd F] [FREQ. PASS]** キーを1秒以上押す。〈PASS〉の表示が点滅します。



- ② 削除する周波数データが表示されるまで、**[ENTER]** キーを何回も押す。

- ③ **[0] [ENTER]** キーを順に押す。表示チャンネルのデータが削除され、次のチャンネルのデータが、現チャンネルへ移行します。



- ④ いくつものパス・チャンネルのデータを削除したい場合は、この操作を繰り返します。

- ⑤ **[DIAL]** キーを押して、このモードから抜け出す。

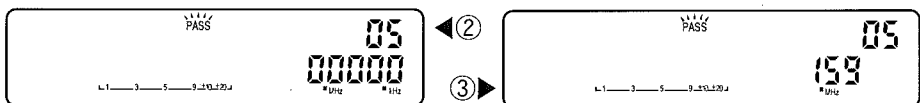
### E-4 テンキーによるパス周波数の入力

パスさせたい周波数が、あらかじめ分かっているときは、テンキーで入力します。

- ① **[2nd F] [FREQ. PASS]** キーを1秒以上押す。〈PASS〉の表示が点滅します。

- ② チャンネル番号の下の周波数表示が、0.000.0になるまで、**[ENTER]** キーを何回も押す。これが、空きチャンネルです。

- ③ 次に、パスさせたい周波数を入力します。たとえば、1.59MHzを入力する場合、**[1] [.] [5] [9] [ENTER]** キーを順に押す。



- ④ パスさせたい周波数が、いくつもあるときは、③の操作を繰り返す。

- ⑤ **[DIAL]** キーを押して、このモードから抜け出す。



## (F) クロック機能

一度、現在時刻を設定しておくで、いつでもディスプレイ部に、現在時刻を表示することができます。現在時刻は電源スイッチを切っても、電源コードが電源に接続されていれば、表示しています。また、時刻は電源コードを抜いても、内蔵電池により保持されます。

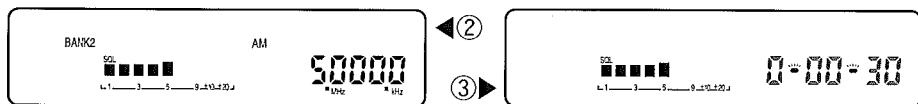
### F-1 クロック・タイムセット(CLOCK.S)キー

現在時刻を設定するためのキーです。クロック機能を使うには、初めに、現在時刻を24時間表示で、時・分・秒の順に入力します。

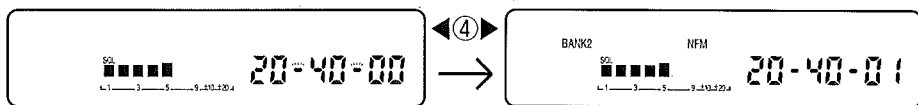
現在時刻は、標準電波放送局(JJY) (AM2.5/5/8/10/15MHz)を受信しながら設定すると、正確に合わせられます。

#### ◆例1 JJYを受信しながら、20時40分00秒を設定する

- ① **DIAL** **MODE** キーを順に押す。LCDの表示が〈AM〉になるように、**UP/DOWN** キーを押す。**ENTER** キーを押す。
- ② **5** **ENTER** キーを順に押す。ここでは、5 MHzのJJYに周波数を合わせ、まもなく20時40分00秒になることを知ったとします。



- ③ **2nd F** **CLOCK.S** キーを順に押す。時・分・秒の区切り符号が点滅します。
- ④ **2** **0** **4** **0** **0** **0** キーを順に押す。JJYを聞きながら、20時40分00秒になると同時に、**ENTER** キーを押す。時・分・秒の区切り符号がついたままとなり、現在時刻を刻み始めます。

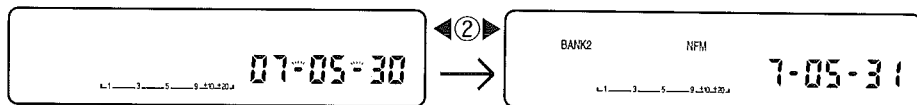


- ⑤ **DIAL** キーを押して、このモードから抜け出します。

## 〔5〕受信機の操作方法

### ◆例2 午前7時5分30秒を設定する

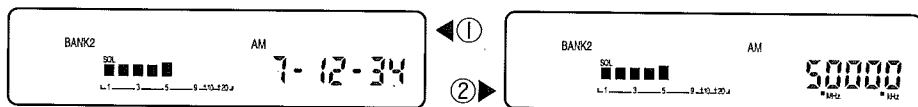
- ① **2nd F** **CLOCK.S** キーを順に押す。
- ② **0** **7** **0** **5** **3** **0** **ENTER** キーを順に押す。



### F-2 クロック・ディスプレイ(CLOCK)キー

受信中に、現在時刻を表示させるときに使うキーです。

- ① **2nd F** **CLOCK** キーを順に押す。現在時刻が表示されます。このとき、周波数以外の表示は、ディスプレイ部に出たままです。
- ② **DIAL** キーを押して、このモードから抜け出します。



## (G) スリープ機能

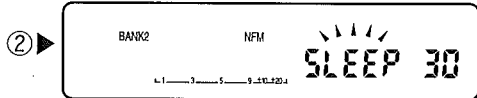
受信機の電源を、一定時間後に、自動的に切ることができます。これが、スリープ機能です。この機能を働かせるには、まず、スリープ・タイムを設定します。そして、スリープON/OFFキーをセットしてから、電源スイッチを切れば、設定したスリープ・タイム後、自動的にパワー・オフ状態となります。

### G-1 スリープ・タイムセット(SLEEP.T)キー

スリープ・タイムを設定するためのキーです。スリープ・タイムは、1～120分の範囲内で設定可能です。設定した時間は、次の設定まで保持されます。

## ◆例 スリープ・タイムを、30分に設定する

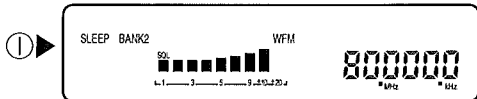
- ① **[2nd F] [SLEEP.T]** キーを順に押す。〈SLEEP〉の表示が点滅するので、スリープ・タイムを、1～120分の範囲で選びます。
- ② **[3] [0] [ENTER]** キーを順に押す。これで、30分の設定ができました。



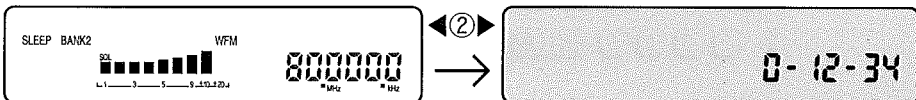
## G-2 スリープ ON/OFF(SLEEP.S)キー

スリープ・タイムを設定後、スリープ機能を働かせるためのキーです。スリープ機能を作動させるには、次のようにします。

- ① **[2nd F] [SLEEP.S]** キーを順に押す。LCDの左側に〈SLEEP〉と表示されます。



- ② 電源スイッチをOFFにする。電源をOFFにしても、直ちに電源は切れず、設定したスリープ・タイム後、電源が切れます。



- ③ スリープ機能を取り消す場合は、再び、**[2nd F] [SLEEP.S]** キーを順に押す。〈SLEEP〉の表示が消えます。

※ 停電状態に入ると、スリープがセットされていても、リセットされ、停電復帰後でも、パワーオフ状態のままになります。

## (H) アラーム機能

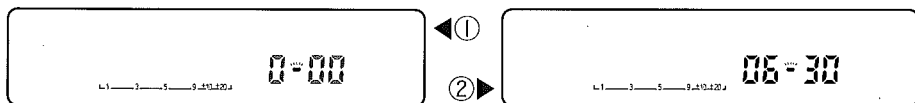
設定した時間に、受信機の電源を入れるのが、アラーム機能です。この機能を働かせるには、まず、アラーム・タイムを設定します。そして、アラームON/OFFキーをセットしてから、電源スイッチを切ります。アラーム・タイムの時刻になると、電源が入り、電源を切る以前のモードの作動を始めます。

### H-1 アラーム・タイムセット(ALARM.T)キー

アラーム・タイムを設定するためのキーです。アラーム・タイムは、時・分を24時間表示で設定します。

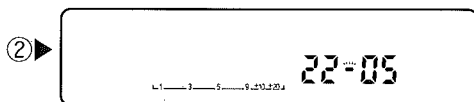
#### ◆例1 アラーム・タイムを、午前6時30分に設定する

- ① **2nd F** **ALARM.T** キーを順に押す。時・分の区切り符号が点滅するので、アラーム・タイムを入力します。
- ② **0** **6** **3** **0** **ENTER** キーを順に押す。これで、設定完了です。



#### ◆例2 アラーム・タイムを、午後10時5分に設定する

- ① **2nd F** **ALARM.T** キーを順に押す。時・分の区切り符号が点滅するので、アラーム・タイムを入力します。
- ② **2** **2** **0** **5** **ENTER** キーを順に押す。これで、設定完了です。

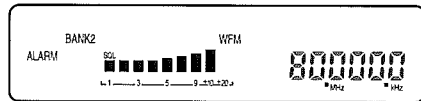


## H-2 アラーム ON/OFF(ALARM.S)キー

アラーム・タイムを設定した後、アラーム機能を働かせるためのキーです。目覚ましとして、この機能を使うには、電源スイッチを切る前に、ラジオ放送などの周波数に合わせておくといでしょう。

アラーム機能を作動させるには、次のようにします。

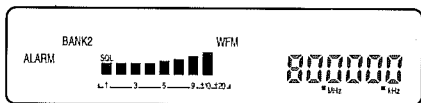
- ① **[2nd F] [ALARM.S]** キーを順に押す。LCDの左側に〈ALARM〉と表示されます。



- ② 電源スイッチをOFFにする。ランプは消えますが、ディスプレイ部に〈AL〉の表示と現在時刻の表示が出ます。



- ③ 現在時刻と、アラーム・タイムが一致すると、受信機にスイッチが入り、受信状態になります。このとき、通常より、音量が大きくなります。このままにしておくと、60分後には電源が自動的に切れます。



- ④ アラーム機能を解除するには、電源スイッチをONにしてから、再び、**[2nd F] [ALARM.S]** キーを順に押します。〈ALARM〉の表示が消え、音量も以前の状態に戻ります。なお、③の状態から、電源を切るには、電源スイッチを2度押します。



## 6-3 音声を自動録音する

受信している音声をテープレコーダーに、自動録音することができます。この場合、AR-3000Aの後面のAUX端子とテープレコーダーのマイク端子・REMOTE端子とを、別売アクセサリーのDINプラグ付き録音用コードで接続します。すると、信号を受信した(スケルチが開いた)ときだけ、信号音をモノラルで録音するようになります。

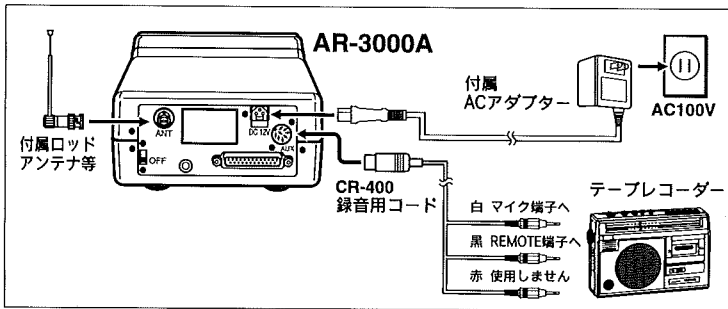
この機能を使えば、テープを効率的に使うことができ、留守中のプログラム・サーチなどの受信結果を、あとで聞くことができます。

### [準備するもの]

- AR-3000A
- テープレコーダー(REMOTE端子付き)
- DINプラグ付き録音用コード(別売アクセサリーCR-400)

(市販のパソコンのカセットデータレコーダー用のコードでも使用できます)

### [接続のしかた]



## 6-4 ニュースや気象情報をファックスで受信する

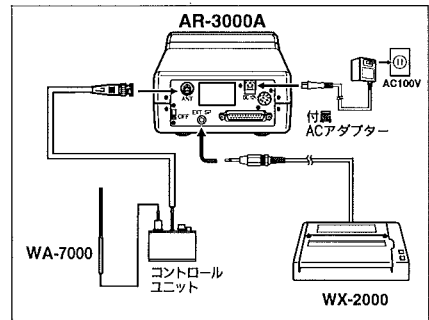
AR-3000Aで短波帯を受信することにより、世界の最新ニュースや気象情報を、リアルタイムでファックス受信することができます。

別売アクセサリーのプリンター内蔵ラジオファックスと、外部アンテナを用意し、本体後面の外部スピーカー端子と、アンテナ端子にそれぞれ接続します。(ファックス放送の中には、特別の契約をしないと受信できないものがありますので、ご注意ください。)

### [準備するもの]

- AR-3000A
- WA-7000(広帯域受信専用屋外アンテナ)
- WX-2000(プリンター内蔵ラジオファックス)

### [接続のしかた]



◆例 日本の気象ファックス(東京)(3.365/5.405/7.305MHz, USBモード)を受信する場合

- ① **DIAL** キーを押す。
- ② **MODE** キーを押す。LCDの表示が〈USB〉になるように**UP/DOWN** キーで合わせる。**ENTER** キーを押す。
- ③ **STEP 1** **ENTER** キーを順に押す。ステップ周波数を1kHzに設定します。
- ④ **3** **0** **3** **6** **5** **ENTER** キーを順に押す。もし、受信状態が悪ければ、別の周波数を入力します。

※ 詳しくは、プリンター内蔵ラジオファックスの取扱説明書をご覧ください。



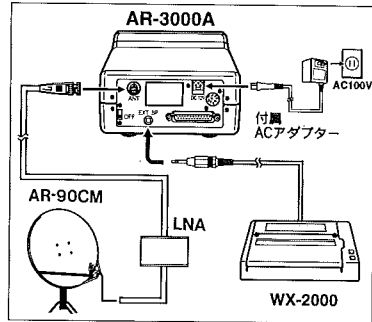
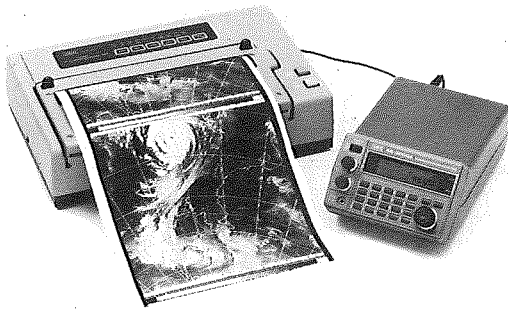
## 6-5 気象衛星ひまわりを受信する

テレビの天気予報でおなじみの気象衛星ひまわりの画像を、プリントアウトすることができます。別売アクセサリの衛星受信用パラボラアンテナ、ローノイズアンプ、プリンター内蔵ラジオファックスを用意し、AR-3000Aにそれぞれ接続します。

### [準備するもの]

- AR-3000A
- AR-90CM (90cmパラボラアンテナ・ステンレスメッシュ・LNA付)
- WX-2000 (プリンター内蔵ラジオファックス)

### [接続のしかた]



### ◆例 気象衛星ひまわり(1691MHz, WFMモード)を受信する場合

- ① **DIAL** キーを押す。
- ② **MODE** キーを押す。LCDの表示が<WFM>になるように**UP/DOWN**キーで合わせる。**ENTER**キーを押す。
- ③ **1 6 9 1** **ENTER** キーを順に押す。

※ 詳しくは、プリンター内蔵ラジオファックスの取扱説明書をご覧ください。

## 6-6 パソコンを使ってリモートコントロールする

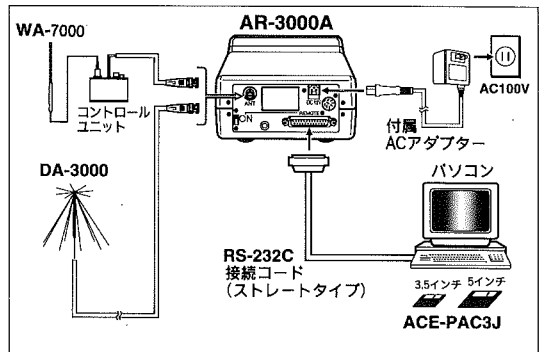
AR-3000Aは、パソコンの通信用インターフェースRS-232Cを通じて、パソコンでリモートコントロールすることができます。

AR-3000Aの後面のリモート端子スイッチをOFFにしてから、リモート端子とパソコンを、RS-232C接続コードで接続します。(もし、リモート端子スイッチがONになっているときはLCDに<RMT>の表示が出ます。)

### [準備するもの]

- ・AR-3000A
- ・外部アンテナ(別売アクセサリ-DA-3000, または, WA-7000)
- ・パソコン(ターミナルモードが設定できるもの)
- ・RS-232Cコネクター付き接続コード(ストレートタイプのケーブルを使用)

### [接続のしかた]



### (A) 初期設定

パソコンをターミナルモードにして、次のように初期設定をします。初期設定のしかたは、ご使用のパソコンのマニュアルを参考にしてください。

- ① ポーレート……………4800bps (9600bpsも可能)
- ② パリティチェック……パリティなし
- ③ データビット長……………8ビット
- ④ ストップビット長………2ビット
- ⑤ Xパラメータ……………無効

## (B) RS-232C モードの起動

初期設定したあと、AR-3000Aの後面のリモート端子スイッチをONにします。パソコン画面には、オープンメッセージが表示され、同時に、AR-3000AのLCDに〈RMT〉と表示されます。このとき、電源スイッチ、スケルチつまみ、音量つまみ以外は、AR-3000Aからはコントロールできません。続いて、パソコン画面には、[>] (プロンプト) が表示され、コマンド待ちの状態になります。

```

*****
* HELLO RS232C CONNECTED *
*           -- JUNE . 1990 --           *
*****
>

```

## (C) データ等の入力コマンド

パソコンから受信機をリモートコントロールさせるコマンドには、次のようなものがあります。

各コマンドの最後には、必ず **CR** (RETURN) キーを押します。

### ◆入力コマンド

- M…メモリー・チャンネルの設定 (00-99)
- S…ステップ周波数の設定 (0.05-999.95kHz)
  - R…ATTをONに設定
  - T…ATTをOFFに設定
- …周波数の設定 (0.10000-2036.00000MHz)
  - N…NFMモードに設定
  - W…WFMモードに設定
  - A…AMモードに設定
  - L…LSBモードに設定
  - U…USBモードに設定
  - C…CWモードに設定
- Q…パス周波数の設定 (MHz)
  - X…バンク番号の設定 (1-4)
- Z…メモリー・チャンネルの呼び出し (00-99)

## (D) データの入力方法

データの入力は、次の順序で行います。

[M-CH]→[STEP周波数]→[ATT ON/OFF]→[受信周波数]→[MODE]

### ◆入力例

- ① 128.8A (CR) ……………128.8MHz AMモードに設定する
- ② 1.9075C (CR) ……………1.9075MHz CWモードに設定する
- ③ R 80W (CR) ……………ATT ON 80MHz WFMモードに設定する
- ④ 20.S T 150.85N (CR) ……20kHz ステップ ATT OFF 150.85MHz  
NFMモードに設定する
- ⑤ 01M 10.S T 144.N (CR) ……01チャンネルに10kHzステップ  
ATT OFF 144MHz NFMモードを書き込む
- ⑥ 99M.05S T 21.U (CR) ……99チャンネルに0.05kHzステップ  
ATT OFF 21MHz USBモードを書き込む
- ⑦ 1.59Q (CR) ……………1.59MHzをパス周波数に設定する
- ⑧ 2X (CR) ……………バンク 2 に切り替える
- ⑨ 01Z (CR) ……………01チャンネルを呼び出す

### ◆注意

- ① データ入力の最後にモードを入れてください。
- ② 入力の順序は守ってください。ただし、ATTのON/OFFは、モードの前ならば、どこでもかまいません。
- ③ メモリー・チャンネルの設定がないときは、メモリーに書き込まれません。
- ④ ステップ周波数の設定がないときは、現在の値が有効となります。
- ⑤ ATTのON/OFFがないときは、現在の設定が有効となります。
- ⑥ 受信周波数の設定がないときは、現在の値が有効となります。
- ⑦ 82.5 (CR) のように、受信周波数だけの入力も受け付けます。  
このときは、現在のモードが有効となります。
- ⑧ メモリー・チャンネルの設定があると、メモリー・チャンネルモードで作動し、それ以外は、ダイヤルモードで作動します。
- ⑨ Zでメモリー・チャンネルの呼び出しをしたとき、該当チャンネルにメモリーがないときは、データのあるチャンネルまで進んで出力します。

## (E) データ等の出力コマンド

受信機で現在受信中のデータを、パソコンに出力させるコマンドには、次のようなものがあります。

各コマンドの最後には、必ず **CR** (RETURN) キーを押します。

## ◆出力コマンド

- Z…指定メモリー・チャンネル(00-99)の内容を出力 (指定メモリーがブランクのときは、次のチャンネルを出力)  
 D…現在のダイヤルモードの内容を出力  
 □□ P…指定したパス・チャンネル(00-99)の内容を出力 (指定のパス・チャンネルがブランクのときは、前のチャンネルを出力)  
 Y…現在の受信レベル (受信周波数の電波の強さ) を出力 (A 最小～P 最大までの16段階と、スケルチOFFは%を出力)

## ◆Z, Dコマンドの出力データのフォーマット

M-CH	JIG	ATT	STEP周波数	受信周波数	MODE
#--	J 0	W(ON) X(OFF)	Z--- -- (kHz)	Y----- (MHz)	Q(NFM) R(WFM) S(AM) T(LSB) U(USB) V(CW)

- ※ Dコマンドのときは、M-CHのデータは出力されません。
- ※ JIGデータは、工場にて使用されます。
- ※ パソコンによるリモートコントロール法のより詳しい説明書が必要な方は、返信用切手を同封の上、弊社までご請求ください。
- ※ AR-3000Aに接続して、パソコンから多彩なコントロールができる、PC-9801用パソコンソフトACE-PAC3Jが、別売アクセサリとして用意されています。このソフトを使うと、メモリー・チャンネルの書きかえや、追加、削除が簡単にできます。また、受信周波数の使用状況をパソコンの画面に、グラフで表示させたりするなど、便利な機能がたくさん内蔵されているソフトです。

## [7] おもな仕様

- ◎受信周波数範囲……………100kHz～2036MHz
- ◎受信モード……………USB, LSB, CW, AM, NFM, WFM
- ◎受信方式……………トリプルスーパーヘテロダイン  
(USB, LSB, CW, AM, NFM)  
クインチュプルスーパーヘテロダイン(WFM)
- ◎受信感度……………(0.1MHz～2.5MHz)SSB/CW(10dB S/N)1.0 $\mu$ V以下  
AM(10dB S/N)3.2 $\mu$ V以下  
(2.5MHz～1.8GHz)NFM(12dB SINAD)0.35 $\mu$ V以下  
WFM(12dB SINAD)1.0 $\mu$ V以下  
SSB/CW(10dB S/N)0.25 $\mu$ V以下  
AM(10dB S/N)1.0 $\mu$ V以下  
(1.8GHz～2.0GHz)NFM(12dB SINAD)1.25 $\mu$ V以下  
WFM(12dB SINAD)3.0 $\mu$ V以下  
SSB/CW(10dB S/N)0.75 $\mu$ V以下  
AM(10dB S/N)3.0 $\mu$ V以下
- ◎受信選択度……………USB, LSB, CW 2.4kHz(−6dB)以上  
4.5kHz(−60dB)以下  
AM, NFM 12kHz(−6dB)以上  
25kHz(−70dB)以下  
WFM 180kHz(−6dB)以上  
800kHz(−50dB)以下
- ◎周波数安定度…………… $\pm 5$ ppm(−10 $^{\circ}$ C～50 $^{\circ}$ C)
- ◎アンテナインピーダンス……………50 $\Omega$ (BNC型)
- ◎選局モード……………ダイヤルモード／ダイヤル・サーチモード／  
プログラム・サーチモード／メモリー・チャ  
ンネルモード／メモリー・スキャンモード／  
プライオリティ・チャンネルモード
- ◎ステップ周波数範囲……………50Hz～999.95kHz(50Hz単位で設定可能)
- ◎周波数メモリー数……………400チャンネル(4バンク×100チャンネル)
- ◎パス周波数メモリー数 400チャンネル(4バンク×100チャンネル)

- ◎スキャン速度……50チャンネル/秒(MAX)
- ◎サーチ速度………50ステップ/秒(MAX)
- ◎低周波出力………1.4W以上 (4Ω 10%歪)  
0.7W以上 (8Ω 10%歪)
- ◎電源電圧………DC 13.8V, 500mA  
家庭用 AC 100V (付属のACアダプター使用)
- ◎表示方式………液晶(LCD)表示
- ◎外形寸法………138(W)×80(H)×200(D)mm
- ◎重量………1.2kg
- ◎付属品………A C アダプター, D C コード, ロッドアンテナ,  
取扱説明書, 保証書

※ 製品の規格および外観は、改良のため、予告なく変更することがあります。

## 〔8〕 参考事項

### 8-1 受信機内部の不要輻射について

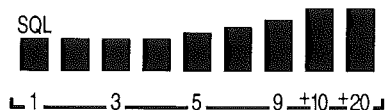
本機は、スーパーヘテロダイン方式の受信機のため、次に示す周波数は、自己電波妨害によって受信ができません。これらの周波数を、周波数パス・チャンネルに入力しておく、サーチの際、パスさせることができます。(p.38 E-4)

1.59MHz	89.6 MHz	140.34MHz	400.78MHz
3.18MHz	96.0 MHz	153.6 MHz	430.78MHz
12.58MHz	102.4 MHz	170.36MHz	460.8 MHz
16.78MHz	108.8 MHz	200.38MHz	
20.97MHz	115.2 MHz	230.4 MHz	
76.8 MHz	123.58MHz	370.74MHz	

## 8-2 信号強度の表示について

入力信号の強さは、LCD上に9段階のバーグラフで表示されます。それぞれの信号強度は、おおむね、次のとおりです。

1 ..... 1 $\mu$ V  
 7 ..... 30 $\mu$ V  
 9 ..... 300 $\mu$ V



## 8-3 初期状態について

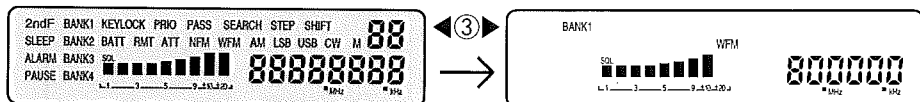
本機を購入されて、始めて電源を入れたときの状態は、次のようになっています。1~4の各バンクとも共通です。

- ◎周波数表示.....80.0000MHz
- ◎受信モード.....WFM
- ◎ステップ周波数.....50.00kHz (☞p.32)
- ◎シフト周波数.....0.0000MHz (☞p.34)
- ◎ポーズ・タイム.....5秒 (☞p.35)
- ◎ディレイ・タイム.....2秒 (☞p.23)
- ◎インターバル・タイム...5秒 (☞p.31)

## 8-4 リセットのしかたについて

メモリーしたデータを一度空白にして、メモリー・データを初期状態に戻したい場合は、次の手順でリセットします。このとき、バンク1のメモリー・データは、58~59ページのようになります。

- ① 電源スイッチをOFFにする。
- ② ③と⑥のキーを同時に押しながら、電源スイッチをONにする。
- ③ キーとスイッチから手をはなす。しばらくすると、電源が入り、初期状態に戻ります。





## 〔9〕 故障とお考えになる前に

受信機の調子が悪い場合、修理に出す前に、もう一度、次の点を点検してください。

## ① 電源が入らない場合

- ★ 電源プラグが奥まで差し込まれていますか。
- ★ A Cアダプター使用の場合は、コンセント側の差し込みに、しっかりと入っていますか。
- ★ 電源コードの＋が、逆につながっていませんか。

## ② 音が出ない場合

- ★ 電源スイッチがOFFになっていませんか。
- ★ 音量つまみが、最小の位置になっていませんか。
- ★ スケルチつまみを、反時計まわりいっぱいまわしても、ザーという音が出ませんか。
- ★ 本体前面のヘッドホーン端子や、後面の外部スピーカー端子に、イヤホーンその他のプラグが差し込まれていませんか。

## ③ 感度が悪く、強力な局しか聞こえない場合

- ★ LCDに〈ATT〉(アッテネーター)の表示が出ていませんか。もし表示があれば、もう一度 **2nd F** **(ATT)** キーを順に押して、表示を消してください。
- ★ アンテナが不良か、同軸ケーブルがショート、または、断線していませんか。
- ★ 受信している周波数と、アンテナの受信できる周波数範囲が、適合していますか。

## ④ 操作しても作動しない場合

- ★ LCDに〈KEY.L〉(p.11)の表示や、〈RMT〉(p.48)の表示が出ていませんか。もし、それらの表示があれば、説明ページを参照して、それらの表示を消してください。
- ★ **(DIAL)** キーを押してから、次の入力操作をしてみてください。
- ★ スキャンや、サーチが作動しない場合は、スケルチつまみを時計まわりいっぱいまわしてみてください。

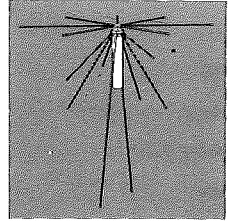
※ 万一、以上の点を点検しても、故障だと思われるときは、弊社まで、その状況をできるだけ具体的に、詳しくご連絡ください。

## 〔10〕 別売アクセサリ

◎DA-3000 広帯域ディスコーンアンテナ

25MHz～2GHz

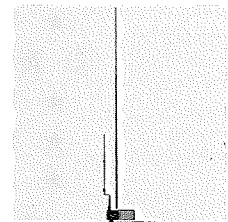
屋外用, 最長エレメント112cm,  
15m同軸ケーブルコネクター付き



◎SA-7000 広帯域受信専用屋外アンテナ

30kHz～2GHz,

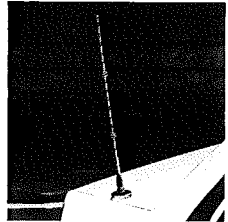
15m同軸ケーブルコネクター付き



◎MA-500 モービルアンテナ

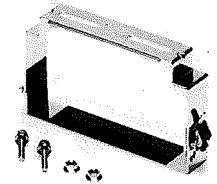
25MHz～1300MHz

自動車専用マグネットマウント,  
エレメント長70cm,  
4m同軸ケーブルコネクター付き



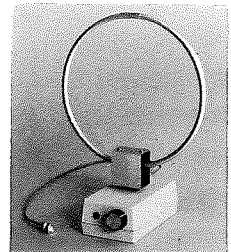
◎MM-1 モービルマウント

自動車ダッシュボードマウント用,  
ワンタッチ着脱式



◎LA-320 室内用ループアンテナ

小型高周波増幅付アンテナ,  
短波帯 (3MHz～30MHz) 専用  
LA-320L LA-320用オプションエレメント/  
長波帯 200～540kHz  
LA-320M LA-320用オプションエレメント/  
中波帯 540～1600kHz



- ◎AR-90CM 屋外用パラボラアンテナ(ステンレスメッシュ・LNA付)  
直径90cm, 気象衛星ひまわり受信用,  
ゲイン18dB以上

- ◎WX-2000 プリンター内蔵ラジオファックス  
気象衛星ひまわりの画像・  
ニュース・気象情報をリア  
ルタイムで鮮明印画,  
感熱式

- ◎CR-400 録音用コード  
DINプラグ付き,  
音声自動録音用コード



※ 別売アクセサリの内容・価格等につきましては、  
弊社までお問い合わせください。

- ・文書 ☎ 111-0055 東京都台東区三筋2-6-4
- ・電話 ☎ 03-3865-1681
- ・FAX ☎ 03-3862-9927

## (11) 受信ガイド便利帳

### 11-1 初期状態時のメモリー・データ一覧

リセットしたとき(※p.54)、バンク1に入力済のメモリー・データを利用すると、受信したい局を簡単に設定することができます。

たとえば、チャンネル64の145MHz(ステップ周波数 20kHz/NFM)のアマチュア無線を受信する場合は、次のようにします。

- ① **6** **4** **MEMO** キーを順に押す。感度があれば音声が聞こえます。
- ② もし、この周波数をもとに、選局したいときは、**DIAL** キーを押して、ダイヤルモードにします。

CH	周波数:MHz	STEP:kHz	MODE	ATT	備 考
00	133.700	50.0	AM	OFF	警察庁カンパニーラジオ
01	0.123	0.05	CW	OFF	気象用電信
02	0.243	3.0	AM	OFF	～0.281MHz:VLF放送局
03	0.594	9.0	AM	ON	N H K第1(東京)
04	0.693	9.0	AM	ON	N H K第2(東京)
05	0.810	9.0	AM	ON	F E N(東京)
06	0.954	9.0	AM	ON	東京放送(TBS)
07	1.134	9.0	AM	ON	文化放送(NCB)
08	1.242	9.0	AM	ON	ニッポン放送(JOLF)
09	1.422	9.0	AM	ON	アール・エフ・ラジオ日本
10	1.9075	0.05	CW	OFF	～1.9125MHz:アマチュア無線
11	2.300	1.0	AM	OFF	～2.495MHz:短波放送局
12	3.200	1.0	AM	OFF	～3.400MHz:短波放送局
13	3.500	0.05	LSB	OFF	～4.000MHz:アマチュア無線
14	3.6206	0.05	USB	OFF	東京第1気象放送
15	3.900	5.0	AM	OFF	～4.000MHz:短波放送局
16	3.925	5.0	AM	OFF	ラジオたんば第1(JOZ/JOZA)
17	3.945	5.0	AM	OFF	ラジオたんば第2(JOZs)
18	4.3141	0.05	USB	OFF	共同通信社新聞放送
19	4.750	1.0	AM	OFF	～5.060MHz:短波放送局
20	5.950	1.0	AM	OFF	～6.200MHz:短波放送局
21	6.055	5.0	AM	OFF	ラジオたんば第1(JOZ2)
22	6.115	5.0	AM	OFF	ラジオたんば第2(JOZb)
23	7.099	0.05	LSB	OFF	～7.100MHz:アマチュア無線
24	7.3031	0.05	USB	OFF	東京第1気象放送
25	9.500	1.0	AM	OFF	～9.900MHz:短波放送局
26	9.595	5.0	AM	OFF	ラジオたんば第1(JOZ3)
27	9.760	5.0	AM	OFF	ラジオたんば第2(JOZ7)
28	10.100	0.05	CW	OFF	～10.150MHz:短波放送局
29	11.650	1.0	AM	OFF	～12.050MHz:短波放送局
30	13.600	1.0	AM	OFF	～13.800MHz:短波放送局
31	14.150	0.05	USB	OFF	～14.300MHz:アマチュア無線
32	15.100	1.0	AM	OFF	～15.600MHz:短波放送局
33	17.550	1.0	AM	OFF	～17.900MHz:短波放送局
34	21.190	0.05	USB	OFF	～21.450MHz:アマチュア無線
35	21.450	1.0	AM	OFF	～21.850MHz:短波放送局
36	25.670	1.0	AM	OFF	～26.100MHz:短波放送局
37	26.900	1.0	AM	OFF	～27.300MHz:CBバンド
38	28.500	0.05	USB	OFF	～29.000MHz:アマチュア無線
39	29.000	20.0	NFM	OFF	～29.900MHz:アマチュア無線

CH	周波数:MHz	STEP:kHz	MODE	ATT	備 考
40	51.000	20.0	NFM	OFF	～54.000MHz:アマチュア無線
41	55.490	10.0	NFM	OFF	時事通信社株式市況 1
42	56.210	10.0	NFM	OFF	時事通信社株式市況 2
43	57.050	10.0	NFM	OFF	時事通信社証券FAX
44	59.345	5.0	NFM	OFF	ピロピロ音(スケルチのテスト用に良い)
45	60.470	10.0	NFM	OFF	時事通信社株式市況 3
46	77.100	100.0	WFM	OFF	放送大学(東京)
47	78.000	100.0	WFM	OFF	FMサウンド千葉(bay fm)
48	78.600	100.0	WFM	OFF	FM富士
49	80.000	100.0	WFM	OFF	FM東京(TOKYO FM)
50	80.700	100.0	WFM	OFF	NHK FM(千葉)
51	81.300	100.0	WFM	OFF	FMジャパン(J-WAVE)
52	81.900	100.0	WFM	OFF	NHK FM(横浜)
53	82.500	100.0	WFM	OFF	NHK FM(東京)
54	84.700	100.0	WFM	OFF	FM横浜
55	95.750	50.0	WFM	OFF	VHFテレビ 1 CH音声周波数
56	107.750	50.0	WFM	OFF	VHFテレビ 3 CH音声周波数
57	110.900	50.0	NFM	OFF	VOR
58	116.500	50.0	NFM	OFF	VOR
59	118.100	50.0	AM	OFF	羽田/東京TOWER
60	119.100	50.0	AM	OFF	羽田/東京APPROACH/RADER
61	126.000	50.0	AM	OFF	羽田/東京DEPARTURE
62	128.800	50.0	AM	OFF	～136.000MHz:航空機無線
63	144.130	0.05	USB	OFF	～145.000MHz:アマチュア無線
64	145.000	20.0	NFM	OFF	～146.000MHz:アマチュア無線
65	146.900	20.0	NFM	OFF	～156.000MHz:警察無線
66	147.020	20.0	NFM	OFF	～150.000MHz:消防・救急無線
67	154.450	10.0	NFM	OFF	簡易業務無線
68	156.000	25.0	NFM	OFF	～162.000MHz:国際船舶無線
69	175.750	50.0	WFM	OFF	VHFテレビ 4 CH音声周波数
70	187.750	50.0	WFM	OFF	VHFテレビ 6 CH音声周波数
71	197.750	50.0	WFM	OFF	VHFテレビ 8 CH音声周波数
72	209.750	50.0	WFM	OFF	VHFテレビ 10CH音声周波数
73	221.750	50.0	WFM	OFF	VHFテレビ 12CH音声周波数
74	246.800	100.0	AM	OFF	～375.000MHz:航空機UHF帯
75	250.100	100.0	WFM	OFF	時事通信社株式市況 4
76	347.700	12.5	NFM	OFF	～362.300MHz:各警察署活系
77	407.400	25.0	NFM	OFF	～411.900MHz:防災無線
78	411.975	25.0	NFM	OFF	～414.550MHz:JR各社
79	430.000	0.05	USB	OFF	～431.000MHz:アマチュア無線
80	439.060	20.0	NFM	OFF	～440.000MHz:アマチュア無線
81	450.000	25.0	NFM	OFF	～460.000MHz:タクシ-無線
82	465.025	25.0	NFM	OFF	簡易業務無線
83	493.750	50.0	WFM	OFF	UHFテレビ16CH音声周波数
84	517.750	50.0	WFM	OFF	UHFテレビ20CH音声周波数
85	529.750	50.0	WFM	OFF	UHFテレビ22CH音声周波数
86	541.750	50.0	WFM	OFF	UHFテレビ24CH音声周波数
87	577.750	50.0	WFM	OFF	UHFテレビ30CH音声周波数
88	589.750	50.0	WFM	OFF	UHFテレビ32CH音声周波数
89	649.750	50.0	WFM	OFF	UHFテレビ42CH音声周波数
90	673.750	50.0	WFM	OFF	UHFテレビ46CH音声周波数
91	807.500	12.5	NFM	OFF	～832.000MHz:航空機公衆電話
92	850.050	25.0	NFM	OFF	～859.000MHz:MCA基地局
93	859.950	25.0	NFM	OFF	～887.000MHz:自動車電話基地局
94	903.0125	12.5	NFM	OFF	～905.000MHz:パーソナル無線
95	950.500	100.0	WFM	OFF	ラジオたんぱ第2
96	952.500	100.0	WFM	OFF	ラジオたんぱ第1
97	1292.680	20.0	NFM	OFF	～1300.000MHz:アマチュア無線
98	1294.580	20.0	NFM	OFF	JARL/ビーコン
99	1691.000	100.0	WFM	OFF	気象衛星ひまわり受信用

## 11-2 テレビ音声周波数一覧

(WFMモード：単位はMHz)

CH	音声周波数	CH	音声周波数	CH	音声周波数	CH	音声周波数
VHF		15	487.75	31	583.75	47	679.75
1	95.75	16	493.75	32	589.75	48	685.75
2	101.75	17	499.75	33	595.75	49	691.75
3	107.75	18	505.75	34	601.75	50	697.75
4	175.75	19	511.75	35	607.75	51	703.75
5	181.75	20	517.75	36	613.75	52	709.75
6	187.75	21	523.75	37	619.75	53	715.75
7	193.75	22	529.75	38	625.75	54	721.75
8	197.75	23	535.75	39	631.75	55	727.75
9	203.75	24	541.75	40	637.75	56	733.75
10	209.75	25	547.75	41	643.75	57	739.75
11	215.75	26	553.75	42	649.75	58	745.75
12	221.75	27	559.75	43	655.75	59	751.75
UHF		28	565.75	44	661.75	60	757.75
13	475.75	29	571.75	45	667.75	61	763.75
14	481.75	30	577.75	46	673.75	62	769.75

## 11-3 航空無線周波数

◎118.000MHz～135.975MHzまでを、AMモードの25kHzステップで、プログラム・サーチする。

◎カンパニーラジオ(エンルート用)周波数(AMモード)

- ・日本航空(JAL)……………131.9MHz
- ・全日空(ANA)……………129.65MHz, 129.7MHz
- ・日本エアシステム(JAS)……………128.5MHz, 130.25MHz

◎ATIS(自動空港情報サービス)周波数(AMモード)

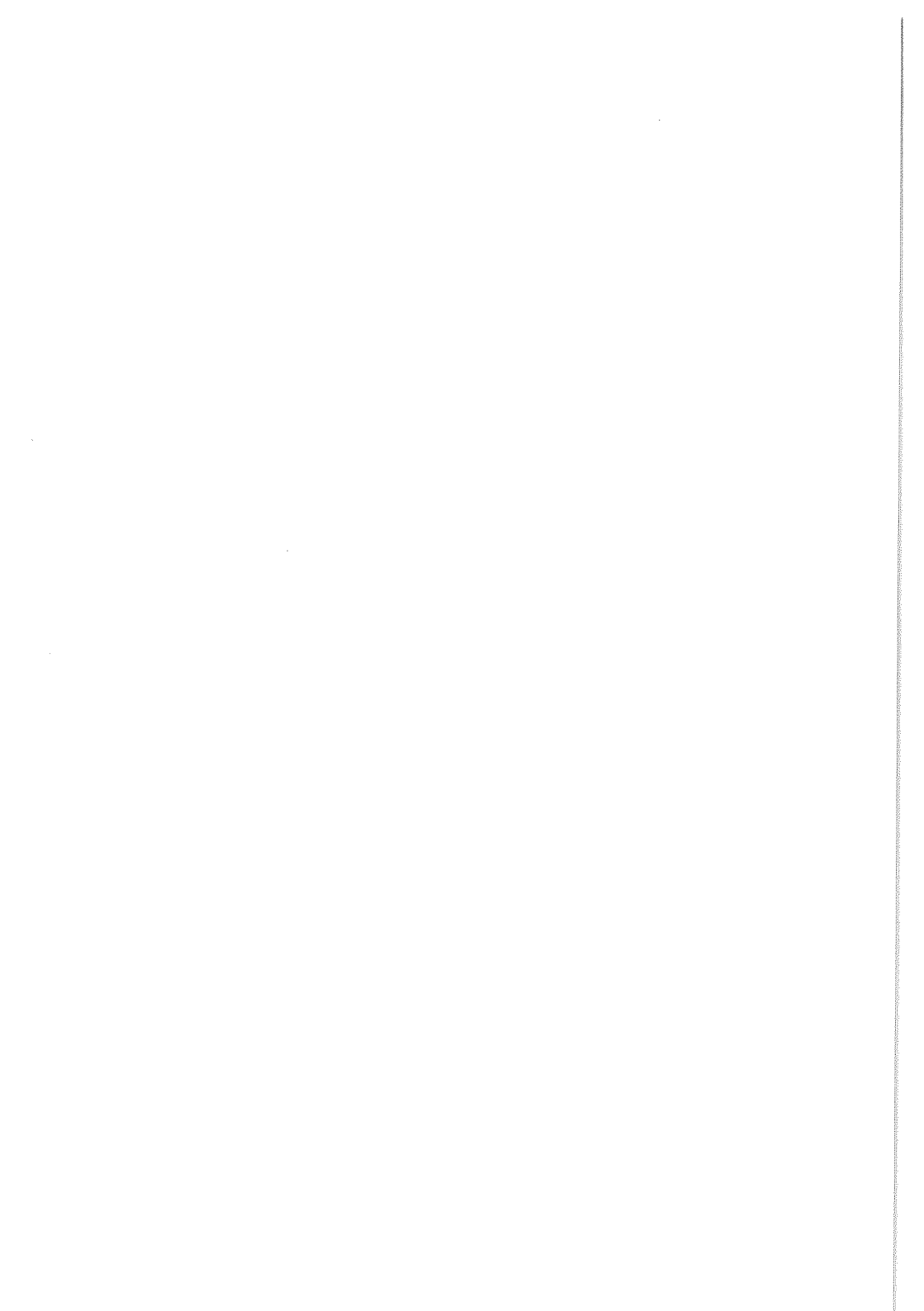
- ・千歳-128.6 MHz
- ・羽田-128.8MHz
- ・大阪-128.6MHz
- ・成田-128.25MHz
- ・名古屋-126.4MHz
- ・福岡-127.2MHz

## 11-4 マリンバンド周波数

◎156.025MHz～163.275MHzまでを、NFMモードの25kHzステップで、プログラム・サーチする。

## 11-5 パーソナル無線周波数

◎903.0125MHz～904.9875MHzまでを、NFMモードの12.5kHzステップで、プログラム・サーチする。





株式会社 **エーオーアール**

〒111-0055 東京都台東区三筋2-6-4

☎ 03-3865-1681